



吹田商工会議所
青年部
10年のあゆみ





目次

ごあいさつ	会頭 紙谷 豊 重	1
組織の変遷	平成2年度部長 田 中 進	2
	平成4年度部長 足 立 善 信	2
	平成5年度部長 長 良 有 芳	3
	平成8年度会長 井 村 卓 治	3
	平成10年度会長 上 田 哲	4
	平成11年度会長 大 枝 正 人	4
総会・例会		6
産業フェア		31
研修事業	経営研修会	35
	企業訪問	35
	経営委員会勉強会	36
	指導力委員会講演会	38
	経営委員会経営ケーススタディ	39
正副会頭との懇談会	紙谷会頭・足立部長	40
商青連・渉外特集		42
トピックス	経済ミッション'92	47
	くすのき寄贈	47
	パソコン同好会誕生	47
	上海経済視察	48
	ベトナム視察研修会	49
	創立50周年記念事業に協力参加	50
正会員・シニア会員・卒業会員名簿		52
商青連・大阪府連への出向者名簿		54
協賛広告		

ごあいさつ



吹田商工会議所

会 頭 紙 谷 豊 重

吹田商工会議所青年部が設立されて、早や10周年を迎えることになりました。設立のころを想い、真に感慨深いものがあります。青年部の諸君に対しまして、心からおめでとうと申し上げます。

本青年部は、平成元年12月に発足以来、青年経済人としての自覚を堅持し、青年部綱領や指針に沿って、各種委員会活動や隔月ごとの例会、諸行事など、充実した事業を実施してこられました。

また、大阪府や全国の青年部連合会の諸事業にも積極的に参加するなど、会員相互の啓発研鑽と交流に努めてこられました。本当にすばらしいことだと、ご同慶に存じます。

会議所の一大事業として毎年開催している吹田産業フェアや、昨年の本商工会議所創立50周年記念事業の企画・運営をはじめ、会議所事業についても積極的に参画する他、会議所組織の拡大と活性化についても多大のご尽力をいただいております、感謝しております。

10周年という年は、これから長く続くであろう歴史のなかでの、最初の大きな節目の年であります。10周年の意義をどのように認識し、如何に対応するかは、その組織の将来がかかっているといっても過言ではありません。

幸い青年部の諸君はこのことをよく理解し、この10年間の総括の上に立って、未来に向って更に大きく飛躍せんと情熱にあふれていることは、頼もしい限りであります。

いま、世の中は大きく変わりつつあります。商工会議所自体も確固とした基盤を築き、自立の道を力強く進むとともに、会員サービスの向上を図り、地域商工業の振興とまちづくりに一層の貢献をするよう求められております。

いつの世にあっても、社会を変革し新しい時代を拓くのは、青年のもつ確かな眼と、青年の理想と情熱と行動力です。21世紀はまさに君たちの時代であります。私は本商工会議所の未来を君達に託し、青年部の諸君が更に研鑽を積み、立派な社会人、経済人として成長されると共に、本商工会議所や地域社会の発展のために、一層ご尽力されるよう期待しまして、ご挨拶いたします。

組織の変遷

吹田商工会議所 青年部 基本方針

平成2年度青年部 部長 田中 進

基本方針

吹田商工会議所青年部が設立され、2年目を迎えることができました。これもひとえに皆様方から賜りました深いご理解と暖かいご支援によるものであり、厚く御礼申し上げます。



設立にあたり目的が明確に示され、その目的に向かって若手経営者らしく慎重に熟慮しつつ、大胆に各事業を遂行したいと思っています。

設立に際しての誓いの一つであります商工会議所の活性化について、今私達が何をすべきか、何を求められているかを考慮し、その一つとして会員相互の親睦を図る事業を我々青年部がお手伝いさせていただきたいと思っています。また、各商工業経営者最大の悩みは、優秀な人材の確保・定着ではないかと拝察され、将来的な経営の見通しについて、この問題を解決しなければ、予断を許さない事態にあります。青年部一同がこの問題に対して前向きに取り組み、少しでもお役に立てる事業を行うことにより、この難局を切り抜けるべく努力を重ねていかねばなりません。

平成3年度青年部 部長 田中 進

基本方針

平成3年度を迎えるにあたり昨年は試行錯誤の年で反省すべき点が多く、これも私の責任と深く反省しております。本年度は会員の親睦と研鑽、会員の増強、ならびに對外事業を積極的に推し進め、かつ会員の一体化を図り地域経済を担う若手経営者集団として自他

ともに認められるよう努力を重ねて行きたいと存じます。

平成4年度青年部 部長 足立 善信

『参加したい青年部』

基本方針

創立から早いもので約2年半がたちました。その間、田中前部長をリーダーに、会員の皆様方のご尽力で、青年部としての組織、運営の形態が整いつつあります。

そこで、本年度も今までの流れに沿った上で、青年部の目的である青年の立場から地域青年経済人としての研鑽と会員相互の親睦（真の友人づくり）を図り、「参加したい青年部」を目標に、さらなる青年部づくりに全力投球で取り組んで参りたいと考えます。会員の皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

事業方針

1. 商工会議所の活性化と地域経済活動の発展に寄与する
2. 青年経済人としてのトレーニングをする
3. 会員の拡大と親睦を図る
4. 内部充実に力を入れる
5. 長期展望をする



平成5年度青年部 部長 足立 善信

基本方針

バブル経済崩壊後、消費の冷え込み、景気回復の兆しは見えず、我々中小企業は不況のまっただなかにあり、青年部においても中だるみという風が吹き荒れています。

この苦境の打開に向けて、今こそ原点に戻り地域青年経済人として地に足のついた研鑽を重ね、人材の育成を計り、足腰を鍛え、来るべき飛躍に備えと共に、青年の立場から商工会議所の事業に参画し、商工業の発展に寄与する。

事業方針

1. 吹田商工会議所の事業に参画
2. 地域青年経済人としての研修
3. 会員拡大と親睦を図る
4. 内部充実に力を入れる
5. 長期展望をする
6. その他、吹田商工会議所の目的達成に必要な事項

平成6年度青年部 部長 長良 有芳

『参加してよかった青年部』

基本方針

平成不況と名づけられたこの不況も、史上最長になろうかと予想され、我々青年経営者もこの荒波の中、生きぬくための最善の努力を行っている最中でありま



しかし、このような厳しい経済環境の中においてこそ、青年部会員各位のチームワークを高め、5周年を迎えたこの年に、一つの節目として、青年部事業に何らかの結果を出して行くことが出来れば、青年経営者としても大きな自信になるはずであります。

本年度の各事業計画においては、「参加して良かった青年部」をキャッチフレーズに立案し、より充実した青年部作りに尽力していきたいと考えております。

事業方針

1. 商工会議所の事業に参画
2. 青年経済人としての、夢と希望を与えるような研修
3. 会員の拡大
4. 会員の親睦と情報交換
5. 5周年記念事業を未来への飛躍の一助とする
6. その他、本会の事業に必要な事項

青年部の長を「会長に統一」（平成4年11月4日大阪府商工会議所青年部連合会（会長：小川裕吉八尾商工会議所青年部特別顧問）総会にて決定）

平成7年度青年部 部長 長良 有芳

『チャレンジする青年部』

基本方針

平成7年が、いよいよ本格的に始動しようとする時、あの悪夢のような大震災が我々を襲いました。

会員の皆様におかれましても、大なり小なりの被害を受けられたと思います。

さらに時が経つごとに、2次災害的に我々経営者を取り巻く経済環境も、厳しさを増しております。

平成7年度の我々青年部の活動も、このような厳しい環境の元で展開して行かなければなりません。

この停滞した自粛ムードの不透明な時代にこそ、青年部のキャッチフレーズとして「チャレンジする青年部」を掲げ、さまざまな事業を立案し、勇気をもってチャレンジしていきたいと考えております。

今年度も、より充実した青年部作りのために、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

事業方針

1. 商工会議所の事業を企画し運営する
2. 行政、他団体との情報交換と協力体制を築く
3. 将来の青年部を見据えた組織作りを検討する
4. 会員の拡大と親睦の充実に努める
5. 府連組織の充実に協力する

平成8年度青年部 会長 井村 卓治

『元気を出して』

基本方針

昨年は、阪神淡路大震災、オウム事件、米軍基地問題、いじめ、中仏核実験…、経済面では2倍組問題、不良債権による金融不安、就職難、失業率上昇…、不安で重苦しい年でありました。



そこで我々としては、この不透明な時代に対して、如何に対応すべきかを真剣に考える必要があります。

それには、まず自分の会社を立て直し、利益をあげることが第一であると考えます。

そのためには本年度のキーワードを「元気」と致します。

自分の身の回りから、あせらず一歩一歩あゆんでいきたいと思ひます。

一緒に「元気を出して」頑張りましょう。

事業方針

1. アクティブな行動力
2. 会員募集
3. 吹田商工会議所50周年への参画
4. 大阪府連への協力

関係上部団体との連携をスムーズに行えるよう『直前会長』『特別顧問』を設置。

平成9年度青年部 会長 井村 卓治

『さらに元気を出して』

基本方針

昨年に引き続き2年目の会長として「明るく」「さわやかに」をモットーに一歩一歩前進して行きたいと思ひます。

昨年度のキャッチフレーズ「元気を出して」を本年度も継続し、我々青年部のメンバー自身が「さらに元気を出して」パワーアップし、その「元気さ」を波及させ「昨年度を更に一歩踏みこんで、我々の周囲を巻き込んだ事業展開を計って行きたい。

事業方針

1. アクティブな行動力
2. 会員募集
3. 吹田商工会議所主催事業への参画
4. 出席の少ないメンバーへの働きかけ
5. 足立全国商青連副会長への協力
6. インターネットへの取り組み
7. 海外研修、産業フェア視察研修も積極的にこなす。

平成10年度青年部 会長 上田 哲

『初心に（これが青年部だ）』

基本方針

井村前会長の「元気を出して」「さらに元気

を出して」の後を受けて、今年も頑張りたいと思ひます。

今年吹田商工会議所設立50周年でもあり、青年部の体制も一新します。「同じ地域の同じ年代の仲間同士の交流」という

初心に帰り、会員全員で丸となって、なにごとに、楽しく明るく取り組める体制で青年部づくりをやっていきたいと思ひます。

1. 各事業に全理事が関わりをもつ

＊ 計画段階からの参画と協力

2. 各事業の検討・再検討

＊ 青年部にとって必要なものを集約する

3. 各理事の提案

＊ 自分のやりたいものとはなにか

事業方針

1. 会員同士の交流を深めるために毎月1回以上会員が参加できる機会を作る。
2. 商青連全国大会、近畿ブロック大会等は会員交流、親睦を図るよい機会として考える。
3. 親会の事業に対して協力する。

平成11年度青年部 会長 大枝 正人

《本質を求めて》

基本方針

あつてはならないことが起こりました。

10年前の青年部設立以来、常に青年部の中心的存在で、多くのメンバー同士の交流を図られ、昨年度は青年部会長として誠心誠意青年部活動にご尽力され、吹田商工会議所50周年という記念すべき年の青年部の代表として素晴らしい事業を展開されてきた上田会長が急逝されたことです。



『同じ地域の同じ年代の仲間同士の交流』を大切にしよう、常々上田会長はメンバーに投げかけられていました。そんな上田会長の思いを十分にやってこれたのか、自責の念に責められています。

上田会長は、私たちに大きな遺産を残して下さいました。

青年部としてせっかく同じ会に入会してきたのだから、その意義を十分生かして、仕事のこと家庭のこと、お互い話し合い、悩みを打ち明けられる、真の仲間となれるような活動をこれからもやっていくことが最も大切なことだと思います。

青年部10周年に当たるこの年、上田会長の遺志を継ぎ、青年部の精神＝本質である『同じ地域の同じ年代の仲間同士の交流』を大切に、加えて、会議所活動の本質である地域社会の健全な発展を図るための、商工会議所の本来の活動を改めて見直し、豊かですみよい吹田になるような活動を推し進めて参りたいと思ひます。

事業方針

1. 会員同士の交流をもっともっと大切にしていく。
2. 地域の経済的発展をはかるための商工会議所活動のあるべき姿を考える。
3. 21世紀を担う若手経営者となるための研鑽に励む。

活動方針

1. 会員同士の交流について
会員と役員の間を補完するように常に心がける。そのために、年間6回の例会を大切に、またその間の意志の交流をはかるような仕組みを作り上げる。
2. 商工会議所活動のあるべき姿を考える。
会議所会員のみならず、広く市民にも商工会議所活動のあるべき姿を問い、自らの行うべき活動の本質を追求する。
3. 素晴らしい若手経営者となるために
青年部会員それぞれの経験、知識を交換し、お互いの資質の向上になるような事業展開をする。



110th anniversary
SUITA YEG

総会・例会

平成元年度設立総会（平成元年12月6日）



第1回例会（平成2年2月14日）

『商工会議所の機能と機構』
『青年部活動方針』

平成2年度通常総会

第2回例会（平成2年4月10日）

総会に引き続き、定刻通り午後6時15分より開会されました。「本年度の目標である、会員相互の親睦を培い、若手経営者としての修練を積み重ね、地域経済の発展、活性化に全員協力し精進努力して行こう。」と田中部長は熱っぽくアピールしました。

『吹田市の現状及び将来像』

場所 江坂東急イン

講師 榎原 一夫 吹田市長



引き続き例会で、市制50周年を迎えた当市の今昔について榎原吹田市長に講演をして頂きました。人口約35万人の吹田市は、千里ニュータウンの建設、そして昭和45年の万国博の開催を契機に飛躍的に発展してきました。

昭和15年、市制施行によって近代都市への第一歩を踏み出して以来、市民一体となって歩んできた事が現在の基盤となっていると強調されました。下水道整備等まだ不満な点もありますが、もっと住みごこちのよい住宅都市として発展させていく将来についての抱負を述べられました。最後に「すこやかで 心ふれあう 文化のまち」をめざしている吹田市のために、我々青年部の若い意見を望んでいますと結ばれました。

例会の最後に12名の新しい仲間が紹介されました。

第3回例会（平成2年6月12日）

『人手不足の要因とその打開策』

講師 ㈱I.B.C.

吉田 功氏



現在は、一般的に人手不足の世の中といわれている。産業構造の変革ならびに円高が世界一の金持国、経済大国日本を造り出し、人々はより豊かな生活を求め、この結果こうげん景気とも呼ばれる長い好景気が続き、これが人手不足を造り出している。また一方では出生率の低下が人手不足の大きな要因となっている。

労働力人口（15才以上の人口×労働力率）をみると、男子ではフリーアルバイターのように定職につかない人が増えてきている関係で減ってきている。女子については、短大卒業後とりあえず職につくという人が増え、20才～30才の労働力人口は増えている。また、男子高齢者については年金支給の普及により減っている。しかし、これは今後、社会福祉制度の低下また健康状態の向上等により、生きがいのある職場があれば増えてゆく可能性は大である。

これらの要因のもと今後、企業における人

事戦略は長期的な目でみる必要がある。まわりの環境変化を敏感に読みとって、それに適応するように労働条件、作業環境、各種制度、給与問題などを変えてゆく必要がある。

第4回例会（平成2年8月7日）

『披露宴でのスピーチ』における心がけ、

人前であがらない話し方

講師 毎日放送アナウンサー

室副部長

青木 和雄氏



◎結婚式の披露宴でのスピーチにおける心がけ

披露宴のスピーチは長くて2分まで、2分を越えるのは良くない。

・引用の言葉は複数の人のものを取り入れると長くなり、聞く人が最初は成程と聞いているが、2つ目3つ目となると嫌になって、早く終わってくれないかと考え出す。そういう人の話に困って結びのお祝いの言葉がはっきりしない。

・よく使われている挨拶は、止める方がよい。例えば5つの袋、3本の木等は、何度となく聞いているので、またかと言うことになる。

・エピソードを話す場合も、引用文と同じで、一つだけにした方がよい。そして、結びのお祝いの言葉をきっちり織り込むこと。

・書いたものを見て挨拶をするのは悪いとは言わないが、全く感情を入れないで、唯々文章を読んでいるだけの挨拶は良くない。出来れば全体の筋書（2分位のもの）を頭に入れておいて、ポイントだけをメモしておき、それに肉付けをして話すのが良い。

◎人前であがらないで話す方法のポイントとして

・深呼吸をして頭の中の鬱んだ空気を全部吐きだし、新しい空気を吸込む。

・大きな声で
・ゆっくり話す

会場全体の人に話していると考えずに、新郎新婦二人だけに話していると思い、出来るだけ新郎新婦の方だけを見て話す。他の人は誰も聞いていないと思えばよい。

第5回例会（平成2年10月9日）

『あなたも狙われるかもしれない』

講師 大阪府吹田警察署防犯課

警部 岡本 義人 課長

警部補 村下 和弘 係長



・暴力団の対応としては、暴力団を恐れず、とにかく警察とよく連絡を取り排除して行くことが一番である。

・押収量の100倍の覚醒剤が出回っているものと思われる。暴力団や若者の常習者の他に最近家庭の主婦にまで及んできている。

・防犯は地域のコミュニケーションが大事である。玄関に「防犯当番」という標識を掲げておき、これを順番に回して行くのが効果的である。標識を持って行くときに隣の人と会話ができるので、良いコミュニケーションが生まれる。

このような地域には押売や悪徳商人が近寄り難い。何れにしても市民の皆さんのご協力を頂いて防犯の少ない住み良い街にしていきたい。

平成2年度臨時総会

第6回例会(平成2年12月11日)

『プロ野球ウラ話』

場 所 ギャラリーレストラン
モンダルジャン
講 師 長 池 徳 士 氏
(元)阪急ブレーブス
(現)デイリースポーツ野球評論家



プロ野球チーム、ヤクルトスワローズの野村監督のもとでコーチとしての立場から見たお話。

プロ野球の監督には色々なタイプがあり、また色々なやり方があるが野村監督の方針は大きく分けて次の二つに代表される。

その一つは「他人の痛みを知る野球」、もう一つは「すきのない野球」をそれぞれ目指せということである。

野球はチームプレーであるから、絶対に良いチームワークが要求される。しかしベンチにいらしている26人の選手を分析してみると集団の法則なるものがあり、すなわち2:6:2とすることができる。どう言うことかと言うと、監督を支持する選手の割合がこのような比率になっている。すなわち2割が賛成派で6割が中間派、残り2割が反対派と言える。特にコーチ経験のない監督のチームではコーチの立場が大変重要である。

最後に、財を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上と言われる。

第7回例会(平成3年2月12日)

『我が社の経営理念』

場 所 エスカイヤクラブ
(大阪駅前第3ビル32F)
講 師 大和実業株式会社
代表取締役社長 岡 田 一 男 氏



昭和30年大和実業株式会社を設立、今では高級会員制「エスカイヤクラブ」を始め、ザ・ワインバー、パブレストラン、ディスコから活漁料亭まで全国に170余店舗を有し、エスカイヤクラブの会員は75000人で内女性会員が10000人。

何と言っても一番の特徴は、会員に発行している磁気カードにより、入口の扉を開けることから始まり、ボトルの残量をコンピューターで管理し、カードの中に書き込んであるので、北は札幌から南は博多迄全国何処の店に行っても自分のボトルが出てくるところにある。

さらにカードの盗難、紛失、退会あるいは、3ヵ月以上未入金か否か迄管理している。

大和実業すなわち岡田社長の経営理念は「わが社の成長、発展こそが、社会への貢献とお客様の幸福の基礎である。」

「レジャー業界の名門としての品位と誇りを高めよう」となっている。教育については「社長の分身をつくる」という意味で自己革新、相互革新を行って特に笑顔、感謝ということを常に心がけている。

また、宗教と商人ということで、いろいろ宗教的な考えも取り入れ、お客様に対する愛情とか、商人としての使命感というものと宗教の真理、哲学とは同じであろうと思われるので、自社の教育の中に取り入れている。

と熱っぽく語られる岡田社長を通して現代の大和実業グループの繁栄ぶりが伺えた。

平成3年度通常総会

第8回例会(平成3年4月23日)

『最近の国際情勢と日本の防衛』

場 所 江坂東急イン
講 師 自衛隊大阪地方連絡部長
石 田 潔 陸将補



第9回例会(平成3年6月11日)

『あなたは自分のファッションに自信がありますか』

場 所 千里フォアイエ
講 師 (有)イグレッグ・ステュディオ
樋 口 裕 二 氏



第10回例会(平成3年8月29日)

場 所 神戸沖 洋上例会



8月の例会は、「洋上例会」と銘打って、豪華な双胴クルーザー「くいーんろっこう号(217トン)」を貸切って船上で開催されました。本例会では、青年部会員の家族、または友人知人等一般の方々にも我々の活動を知って頂き、また、親睦を深めて頂くためにご参加頂きました。

一行は、当日貸切ったバスで神戸港中突堤に到着して、乗船。また、神戸港沖をクルーザーで周遊しての港情緒に溢れた神戸の夜景を、それぞれおおいに満足された様子でした。船内では、出港後まもなく例会が和やかなうちに開催され、続く船上パーティーでは、一気に盛り上がり、至る所に人の輪ができ、新しい出会いと人の交流が始まりました。その後も、ゲームや催し物で、またたく間に時間は過ぎてゆき、ひと夏の最後の思い出にふさわしい時は終わりました。

第11回例会(平成3年10月8日)

『吹田市と商工業の将来について』

場 所 吹田さんくす大ホール
講 師 岸 田 恒 夫 吹田市長

10月例会は、講師に吹田市長が来て頂けるということから、公開例会という形をとりました。

地元市長の講演ということから、全てのお話しが、我々自身の生活や仕事に直結するだけに、参加者も真剣な表情で聞き入っていました。市長の方針としては、これからの町

づくりは、アメニティと心がなければだめであり、10年先、20年先にも誇れる町づくりを目指すことだそうです。また、我々会員にとって喜ばしいご提案として、青年部と市、行政との連絡会を定期的に持ちたいとのご意向もお聞きすることができました。懇親会にも市長に参加して頂き、会員との交流の輪が広がり、将来における青年部と市との関係プレーが楽しみになる、素晴らしい例会となりました。

平成3年度臨時総会

第12回例会（平成3年12月10日）

『バブル崩壊』

これからの土地、金融、証券

場 所 大阪王姫会館

講 師 コスモ証券本店株式会社部長

浅 村 隆 夫 氏



第13回例会（平成4年2月21日）

『我がゴルフ人生』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 プロゴルファー

杉 原 輝 雄 氏

平成4年度通常総会

第14回例会（平成4年4月22日）

『がんばってます大阪府警』

場 所：メイシアター小ホール

講 師：大阪府警察本部刑事部

捜査第4課課長補佐

弓 場 昌 治 氏

（講師経歴）

昭和40年7月 警察官拝命

※ 48年10月 高槻警察署刑事課

※ 50年3月 捜査第1課（府警本部）

※ 55年3月 機動捜査隊

※ 58年4月 捜査第1課（府警本部）

※ 61年3月 曾根崎署刑事官

平成3年1月 警務部監察室（方面監

察）

※ 4年3月 捜査第4課課長補佐

（府警本部）

総会に引き続き4月例会は、足立部長の挨拶から始まりました。今年度「参加したい青年部」を目標に、商工会議所の活性化と地域経済活動の発展に寄与する。青年経済人としてのトレーニング、会員の拡大と親睦を図る、内部充実に力を入れる、長期計画室にて活動したいことを実行する、を基本方針としてより一層青年部活動を充実していきたいと力強く述べられました。

例会講演会では、弓場先生を講師に招き講演して頂きました。我々企業だけでなく警察側としても人材不足は、深刻な問題のようです。相次ぐ警察官の不祥事には、弓場先生も頭を痛められているようでした。また、犯罪の凶悪化、暴力団に関する問題等、貴重な話を聞かせて頂くことができ、警察にたよるだけでなく、お互いに問題を解決するという気持ちで社会生活に望まなければと痛感しました。ますます複雑化、凶悪化する事件に立向い頑張ってほしいと思います。

第3部懇親会は、レセプションホールにて開催された。

第15回例会（平成4年6月16日）

『開運に勝つには!』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 柏 原 一 風 氏



第16例会（平成4年8月26日）

『上方文化艶話』

—おへその下から見た大阪文化—

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 井 澤 壽 治 氏

「ああ、なるほど」の連発でした。この日の副題「おへその下から見た大阪文化」の通り、上方歌舞伎を中心に男と女のお話が続きましたが、現代の飛んだ言葉しか知らないものにとっては、大変勉強になりました。昔の人は、何と柔らかい頭だったのでしょうか。この後、講師の著書であります「上方大入袋」より上方芸人の逸話などもお話頂き「こんな芸人が、こんなことしよるんか!」と驚いたり、「やっぱりなあ」と思う話など、あっという間の講演でした。

井澤先生のお話を聞くと「大阪」というより、「上方」のほうがとっても粋（すい）な感じがします。

第17回例会（平成4年10月20日）

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 大阪府企画調整部企画室参事

松 江 伸 二 氏

『吹田市及びその周辺の』

プロジェクトについて』

新聞やテレビニュース等で知っている関西国際空港や京阪奈丘陵の開発などの他に多く

の公共事業計画について知ることができました。

ただ、こと吹田市についてははっきりしたものがないようです。

特に吹田市を南北に分断している旧国鉄跡地についてはまったくと言っていいほど目新しい話はありませんでした。我が吹田でも一番関心ある跡地問題を吹田市と共に府も力を合わせて早期に明確な方向性を出してもらいたいものです!!

平成4年度臨時総会

第18回例会（平成4年12月4日）

今年最後の例会は“ゆーぶるESAKA”にて行われました。今までの講師講演体制でなく、湯舟につかって語り合う、12月にふさわしい温泉気分の例会でした。

サウナ、超音波バス・露天風呂等、12種類の湯があり、会員はそれぞれ好みの湯につき、家庭の風呂では味わえない雰囲気満足そうでした。会話も弾み、今年の疲れ・あかも落し、さっぱりとした気分第3部忘年会の開宴となりました。

第19回例会（平成5年2月22日）

『今年のプロ野球展望』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 一 枝 修 平 氏

平成5年度通常総会

第20回例会（平成5年4月21日）

『バブル崩壊後の経済と経営』

場 所 パッスルイン

講 師 大阪教育大学助教授

岩 田 年 浩 氏

バブルはなぜ起こったのか?という原因ですが、1985年のプラザ合意によるドル支援の外圧と日本国内の円高不況対策のために超低金利政策（公定歩合は過去最低の2.5%）を行ったので、バブル向けの資金の投下により土地・株が4年間で3倍にはね上がりました。

このバブルは財産をたくさん持っている者だけが儲かったという点では、1970年代の高度成長とは異なります。

しかし、バブル崩壊の結果、高水準にあった株や地価はそれぞれ3分の1、3分の2に急落、小口投資家の大損、金融機関の大量の不良債権の発生、金融・証券・政治家のスキャンダルなどが発覚しました。

また、学生からの質問内容についてもいくつかご紹介しました。



Q1. GNPは売上合計か所得合計か?

A. GNPは売上合計ではなく、所得合計である。因みに日本のGNPは460兆円(内訳:消費需要250兆円、住宅投資20兆円、設備投資90兆円、政府支出90兆円、輸出入の収支10兆円)である。

Q2. フロー(所得)とストック(財産)の割合は?

A. 日本でその比率は460兆円と7,000兆円が一応の目安になっている。

Q3. 景気をよくするにはどこにメスを入れれば良いか?

A. 金利を下げる→円安の圧力がきく
日銀債を増発すると→利子率を下げることに
なり、対外的によくはない

賃上げすると→企業の利潤が減る
輸出を増やすと→貿易摩擦の原因
などのようにプラスとマイナスの効果が
あり、これらの均衡をとるのが経済学の特徴で
ある。

Q4. サービス業と第3次産業の違いは何か?

A. 第3次産業の中にサービス業があり、
これからのサービス業は環境をよくする方向
の商売、アイデアを提供する商売が良いと
思われる。

Q5. 日本はよく発明するから豊かか?

A. アボットというイギリス人が編集した
「世界の発明家辞典」には日本人は一人もい

ない。イギリス、フランス、ドイツ、アメリカなど軍事技術が基本の国が多く、日本には商品化技術のバリエーションが豊富にある。

バブルがはじけたといっても、日本経済の設備投資意欲、高技術水準がなくなったわけではなく、また国際競争力が落ちたわけでもありません。実体経済とは関係のない虚業の世界で起きたものであり、それよりも物を生産して流通させるという市場経済の本道から外れている傾向にあるアメリカの真似を日本がすると本当に危ないのです。

これからはバブル的な株高、不動産高で儲けようという考えは捨てて、あくまで本業の正常な生産、流通から利潤を得るようにしっかりと認識して下さい。

第21回例会(平成5年6月10日)

『心ゆたかに』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 中山靖雄氏

財団法人修養団

伊勢青少年研修センター

どんな出来事でもそれは何かの原因が集まって起こっています。原因が一つでも欠けると出来事は成立しません。一つ一つの原因は偶然でもそれらを線で繋ぐと必然となります。

人の命は毎日生きていますと同時に、毎日死に続いていると言えます。これが本当のことなのです。「命がけ」などと大げさに言わなくても、今自分がしていることに自分の命のすべてがかかっています。このことが本当にわかったならばやる事が変わってくるはずです。

『花びらは散るけれども花は散らない』

本当のことを本当と見つめたら生き方は変わります。

出会っているのか出会わされているのか、生きているのか生かされているのか、見える世界から言えば偶然でも見方を変えれば必然の世界もあります。いろいろ受けとめ方をする時代が来たように思います。そういう見方で人を見たら、人の見方がちよびり変わってきます。

〈人間国宝の加藤唐九郎氏が自分の弟子が去ってゆくことに悩んだ時の話〉

加藤氏はあるとき弟子が造ってくる器に、一つとして同じものがないことに気づき、そ

れらのどこかにきっといいものがあるはずと
考え、それを見抜けなかった自分が間違っ
ていると気づいたのです。そして日記に次の
ように記しました。

『好きになろう。好きにならなければいい
ところが見えない。どんな欠陥だらけでも一
箇所でもいいところがあればそれは名器だ。』

出会っているのか出会わされているのかで
ものの見方がちよびり変わります。そこ
から我々は役割が生れるのです。その役割を
どう果たすかに立派さがあるのです。

役割には陽の当たる役割とそうでない役割
があります。陽の当たるときに、にこにこ生
きるのには誰でもできます。陽の当たらない
ときに、ぶつぶつ文句を言いながら生きるの
も誰でもできます。陽の当たらないときに何
かの縁だからと、がんばるかどうかが、これが
人間の魅力なのです。

今我々はどうしようもないところを通ら
されています。でも、もしこのまま好況が続
いてもしたら、本当のものが光らないで終
わってしまいます。本当に諦めかけられてこ
そ本当のものが生き残ります。このどうし
ようもないところをどう通るかが「心の豊
かさ」なのです。

『自分で自分の機嫌をとれる人』

〈マラソンの谷口選手の話〉

彼はバルセロナオリンピックのとき、給
水場で靴がぬげてしまい惜しくもメダルが
とれませんでした。しかし、そのとき彼は「
これが運だったんですね」と言い訳一つ言
いませんでした。

〈マラソンの有森選手の話〉

彼女がバルセロナオリンピックで2位に
なったとき、報道関係者から金メダルでな
くて残念でしたねと聞かれ「私は金メダル
をとれるほどの苦しみを味わってなかった
」と彼女は言いました。

〈重度の障害で歩くことも書くことも
できない17才の少女の話〉

「私の身体が不自由なのは、神様が私に
きつと苦しみに耐えられると思ったのよ
ね。私は神様に選ばれたのよね。」

自分で自分の機嫌をとれば、まわりは必
ず明るくなってきます。自分のものの見
方をちよびり変えることによって、どこ
かからかわってくる世界があるはずです。

『出会いを通して自分に出会う』

出会いというのは人に出会っているの
では

なく、本当は自分に出会っているのです。
出会いによって自分がわかる。いやな奴
だなど思った瞬間いやな奴だと思っ
た自分がある。それを叩き、いい人だ
などと思ったときそう思えた自分に悦
びを感じてゆきます。これが自己啓
蒙の基本です。

今苦しいことがいろいろありますが、「何
か訳があって通らされているんだなあ」と
生き生きとそれを受けとめて、ちよびり
明るくふるまったら、それが原因の一つ
となって出来事が少しずつ変わって
いくはずです。

最後に中山先生は、全員で「しゃばん
王」の歌を合唱して講演会を締めくく
られました。

第22回家族例会(平成5年8月28日)

『水上バスとパナソニックスクエア』

「エレクトロニクスと遊び・学び・体験し、
水上バスで中之島をめぐる」

場 所 大阪ビジネスパーク

青年部メンバーだけではなく、日頃から
青年部活動にご協力頂いているメンバ
ーのご家族に感謝の気持ちと今後の青
年部活動にさらにご理解頂こうと企画
しました。

近場とはいえ、大阪ビジネスパークは「
夢」を感じさせてくれるエリアです。ツ
イン21にあるパナソニックスクエアで
は、ハイテクの素晴らしさ・楽しさに子
供達も堪能したことでしょう。一方、興
味方にとってライフブライズは夢のス
ペースです。キッチンやバスなどわが家
がこんな風になればと思われた方も
多いはず。しかし、夫の立場ですと「お
金がいくらあっても足らんわ」と言いた
くなります。妻よ、見るぐらいは許そう。

ところかわって水上バスも今やなにわ
の名物。琵琶湖畔のミシガンなどは趣
が違い、また「貸切」という余裕がな
かなか乙なものでした。後半の懇親会
でのゲームの司会を任されているだけ
ば、ビールを浴びるほど飲んでしま
うでしょう。

眺めの良い展望を誇る松下IMPビル
26Fのパノラマビュースタイルサ
ンで懇親会。

第23回例会(平成5年11月4日)

(大阪府連初の合同例会)

『我が野球人生』

野球一筋に命を懸けた Mr.T から虎の巻学ぶ

場所 レセプションホール

講師 掛布雅之氏

プロ野球解説者

平成5年度の府青連は、

①青年部が未設置の商工会議所に設置を求める運動

②府青連メンバー間の交流

③7年度開催予定の近畿ブロック商工会議所青年部研修会に向けての考案など3つを主な柱として事業を推進しています。

本所青年部では、足立部長が府青連の2つ目の柱を担当する副会長を務めており、今回はメンバー全員の初の顔合わせということで府青連初の合同例会を催し、そこで当青年部の例会を体験して頂こうと企画されたものです。

例会では、北大阪、高石、守口門真、八尾、そして吹田と5つの青年部が府下から続々と詰めかけました。

小川会長からは「メンバー間で親睦を深め、お互いを理解し、同じ目的を共有することが何よりも大切であり、このような機会をつくって頂いた吹田の青年部の皆さんに大変感謝します」と述べられ、これを受け足立副会長からは「府青連初の合同例会を我々吹田の青年部に企画・運営をお任せ頂き誠に光栄に思います」と答えました。



講演では、掛布氏に熱弁を奮って頂きました。

今回は、その野球人生の生きざまや人間模様、優勝体験談等の様々なエピソードを交え

ながら「なぜ33歳という若さで選手生命を絶ったのか?」という私たちの素朴な疑問にも率直に答えられ、多くの方に感銘を与えました。

懇親会では、来賓を含めた総勢100名もの方々が一同に会して懇親を深めました。

平成5年度臨時総会

第24回例会(平成5年12月3日)

場所 料亭 三笠

第25回例会(平成6年2月15日)

講師 西川哲成氏
大阪歯科大学講師

『エイズを感じる』

「エイズ時代」

エイズ(後天性免疫不全症候群)は、エイズウイルス(HIV)によって感染し、体の免疫機構に干渉しているある種のリンパ球を破壊し、どこにでも存在する菌に感染し発病します。一般にHIV感染後1~2週間で風邪のような症状が表れ、引き続き無症状状態となり、2~5年で長期に渡る食欲不振や下痢となり、体重が著しく減少します。そして7~8年で感染者の約半数がカリニ肺炎やカンジダ症等を発病します。これがエイズ患者で、患者の75%は3年以内に死亡します。

エイズは、アフリカ・アメリカ・東南アジアで多発しており、1981年にカリフォルニア大学で報告されてから今年で10年余り。日本で見ると、86年は11人、6年後の92年には100倍に達している。特に91年からは爆発的な増加を辿っています。

感染経路は大別して次の4つが挙げられます。

- ①感染した母親から子へ
- ②感染者とのコンドームなしでの性行為
- ③静脈注射の回し打ち
- ④明らかな傷がある時に汚染された血液を浴びる等です。

「今やコンドームは避妊具ではなく、救命胴衣」

性行為は国内感染が意外と多いのです。

そこで、日本での予防は、性行為に対しての洗浄とコンドームです。今やコンドームは避妊具ではなく、救命胴衣なのです。と分か

っていても必ず着用する、または付けてもらう人は意外と少ない。これは自殺行為です。

「感染者の3分の2は自分の子どもの年代?」

性行為の盛んな10~20歳代では全感染者の3分の2を占めており、さらに30歳代を含めると9割に達します。

「エイズは、感染力の強いウイルスではない」

コンドームなしでの性行為の感染確率は0.3%、即ちコンドームを着用の場合、ほぼ100%安全と考えられます。さらに日常生活での一般的な交際では、キスも含めて感染することはありません。それでも不安な時は、保険所で検査を受けることができます。ただし、感染してから6週間以上経過していないと検査の結果は無意味です。

「あなたの結果が陽性と出たらどうしますか?」

自分の死を身近に感じ、職を失い、家族や友人は離れていき、感染者の大半の人は「頭の中が真っ白になる」ほどの衝撃を受け、自殺を考えるとされています。これは人として大変不幸な事であり、この状態がある限り、感染者は検査することなくアメリカ同様、地下でどんどん広がっていくのです。不幸にして陽性であったならば、当然他人に移さない事。そして専門医の指導を受け、体を安静にする事です。安静と栄養はエイズの進行をかなり遅らせます。

「もし同僚が感染者だとわかったらどうしますか?」

7割の人が不快に思い、3割の人が交際を断るでしょう。これが癌の患者であったら、お見舞いにいき同情するでしょう。エイズは日常生活では感染しないのです。タバコの場合、本人のみならず他人にも害を及ぼし、癌そして心臓・脳・肝臓疾患と致命的な病気の原因の第一位となっています。もしタバコを受け入れる事がOKなら、もっと安全なエイズ患者は受け入れられるはずです。

「あなたの企業ではエイズ対策をしていますか?」

大切な事は従業員にエイズ患者が出る前に対策を講じる事です。

対策は大別して次の4つがあります。

- ①予防教育
- ②偏見をなくす教育
- ③プライバシーの厳守
- ④カウンセリングの整備です。

感染者が出てからではパニックとなり、教育効果は著しく低下し、また感染者は隠れてしまいます。

以上、エイズについてまとめると、

(1)日本では今後患者が急激に増えると考えられます。対策は今しかなく、放置していると手が付けられなくなります。

(2)教育の対象は10~20歳代。

(3)企業は早めの対策を。

(4)予防はコンドーム。

そして日常生活では感染しないということです。

さあ、エイズ時代の到来。あなたはどのように生きますか?

平成6年度通常総会

第26回例会(平成6年4月19日)

「青年部設立への思い」

講師: 佐々木 欣也 最高顧問
吹田商工会議所最高顧問の佐々木欽也氏を講師にお迎えし、講演会を行いました。

佐々木最高顧問は、青年部設立にあたり、当時の会頭として積極的に推し進めてこられました。

創設5周年を迎えた我々青年部は、ここで設立当時を振り返り、これからの青年部がどうあるべきかをもう一度考え直すいいチャンスと思い、「青年部設立への思い」をテーマにご講演を頂きました。以下は講演要旨です。

★講師プロフィール★

佐々木欽也(大正14年5月31日、当時69歳)

S 19. 3. 海軍兵学校卒(73期生)

24. 3. 日本大学 法文学部卒

24. 4. 大日本麦酒株式会社

51. 2. 朝日麦酒株式会社取締役就任

60. 3. アサヒビール株式会社監査役就任

5. 吹田商工会議所 会頭就任

H 3. 3. アサヒビール株式会社就任

3. 10. 吹田商工会議所 最高顧問就任

会頭に就いた時、いろいろな抱負を持って臨みました。

第1に財政の建て直し、

第2に会館問題、

第3に会議所の長期ビジョンです。

そして、第4に会議所の活性化です。

会議所活性化には若い力が不可欠

これにはまず若い人達にもっと参画してもらい、中心になっていってもらわなくてはと思い、青年部設立を考えたのです。

失敗恐れず、チャレンジを

しかしその後、体の調子が悪くなり、平成

元年3月には阪大病院に入院することになりました。胃や腸の大半を取り除くなど3度にわたる手術を終え12月にやっと退院しました。退院後はじめは元気でしたが、1年、2年経つと手術の影響なのか、何をするのもいやになってしまうくらい体調を崩しました。

でも、人間とは不思議なもので、気落ちしていると「よし、もう一度!」という気持ちが湧いてきて、平成4年までに体調が少しずつ回復し、5年には「会議所に行こう」と考えだしました。また、同年は4度目の手術をしましたが、これらの経験でもの考え方が変わってきたことに驚いています。今まで若い力を大切にしなければという考え方から、独特のやり方をとってきました。若さを考える中で、経験が少なくよく失敗することがありますが、発想の転換をし、若いからこそ失敗する権利があるのではと考えたのです。

青年部も同様、若い力を結集することにより、若い故の無茶、若い故のやっけないこと、新しいことへのチャレンジが必要なのだと思います。

青春、それは…

「若さ」ということを考える時、「青春」という二文字が浮かび上がりますね。サミュエル・ウルマンという詩人の「青春」という詩に私の好きな言葉があります。「青春とは人生のある期間をいうのではなく、その人の心の持ちようをいう」、年齢が若いから青春であるとは言えません。

年齢が若くても、ものの考え方が段々老いていくような人は青年ではなく、青春を持っていない人なのです。たとえ、50、60歳でも、青春を維持することができるのは信念とともに若く、また自信とともに若く、希望がある限り人間は年齢に関係なく青春を謳歌できるはずだと思います。

我慢しなければならないこともある

太平洋戦争時の連合艦隊司令長官の山本五十六氏が「男の修行」というものを書かれました。「苦しいこともあるだろう、云いたいこともあるだろう、腹が立つこともあるだろう、泣きたいこともあるだろう、これをぐっとこらえていくのが男の修行である」。

若さは辛いもので、前向きなものである。しかしその反面、じっとこらえて我慢しなければならない時もあり、それをこらえるのも

また若さなのです。若い故にそうしなければならぬこともあるということを最後に付け添えておきます。

第27回例会（平成6年6月22日）

【リーダーシップの心理学】

場 所 吹田商工会議所大会議室
講 師 武 田 建 氏
関西学院大学理事長

第28回例会（平成6年8月29日）

創立5周年プレ・イベント

= 納涼 Beer Party =

平成元年12月にメンバー54名でスタートした青年部は、商工会議所のイベントである産業フェアやゴルフ大会などに積極的な協力をする一方、隔月の例会には各界の著名人による講演会、家族例会、海外視察研修会などを実施するなかで、会員数も92名に増え、10月15日には5周年の式典や記念事業を行うことになりました。

8月の例会は少し趣向を変え、今後の青年部のあり方などをリラックスした雰囲気の中でディスカッションしようと、江坂ゴルフセンターのレストランで納涼ビアパーティーを開きました。

このなかで、式典や記念事業の概要、将来における青年部活動の指針などが話し合われ一層の飛躍に向けて努力することを確認しました。

第29回例会（平成6年10月15日）

創立5周年記念事業

～確かな実績を基に更なる飛躍へ～



吹田商工会議所青年部は、平成元年12月6日、青年の立場から商工会議所の事業に参画することにより、管内の商工業の発展に寄与し、併せて会員相互の啓発と、親睦を図ることを目的として設立されて、今年で創立5周年を迎え、去る10月15日(土)商工会議所において、約90名が出席するなか、創立5周年記念事業が盛大に開催されました。

記念式典では、岸田吹田市長、井川吹田市議会議長をはじめ、他市の商工会議所役員や青年部、当所役員及び常議員など、大勢の来賓がお祝いに駆けつけて頂き、厳粛な雰囲気の中で挙行されました。

長良青年部会長は、挨拶のなか創立5周年を迎えるにあたり、臨席の来賓に対して深い感謝を述べ「5年間の実績を基に青年部の未来を大きく飛躍させると共に、商工会議所活動の一翼を担い、青年経済人として地域社会への更なる貢献を追求していくことが、これからの青年部に与えられた大きな使命と考え、自らの研鑽に努力を惜しまず、精力的に活動していきたい」との決意を熱く語ったのに対し、紙谷会頭からは、5年間の実績を高く評価するとともに「商工会議所の未来を君達に託し、地域社会の発展のために、一層の尽力を期待したい」との強い期待の言葉がありました。

また来賓からも、公務多忙のなかをご臨席下さった岸田市長からは「21世紀に向けた吹田の街づくりに、青年部の情熱と提案力を期待している」との祝辞を頂き、井川市議会議長からも「青年部という若い頭脳集団に積極的な提案を期待している」との激励の言葉がありました。

このように、頂戴した挨拶、祝辞からは、

いずれも5年間の実績に対する高い評価と、これからの青年部に対する強い期待の言葉があふれており、青年部の皆さんは少しプレッシャーを感じたのか、いつになく緊張した面持ちで聞き入っている様子でした。

最後に紙谷会頭より青年部に対し、5年間の実績を讃え、記念品として「青年部旗」の授与があり式典を終了しました。

引き続き行われた記念講演会では、吹田市在住、読売テレビアナウンサーとして活躍され、現在では関西初のフリーアナウンサーとして活躍中の羽川英樹氏を講師に迎え「言葉は魔物、宝物」と題し、様々な状況に応じた効果的な話法について講演が行われました。



講演会終了後、会場をメイシアターレセプションホールに移して、記念パーティーが行われました。パーティーには岸田市長、井川議長をはじめ多数の来賓も参加され、さらに講師の羽川氏も参加される中、アトラクションとして、今年の産業フェアで青年部が企画運営した「企業対抗バンド合戦」において優勝した「パラダイスムーン」の演奏するリズム&ブルースが、会場をリラックスした雰囲気に包み込み、来賓並びに来訪青年部と吹田青年部のメンバーとの歓談が大いに盛り上がりしました。

最後に、創立5周年記念事業担当である井村副会長が、お礼の挨拶とともに「これから10周年にむけて、ますますがんばっていく決意ですので、ご支援をよろしく」と自信に溢れた力強い言葉で締めくくり、記念事業は終了しました。

第30回例会 (平成6年10月26日)

大阪府連合同例会 「自分を輝かせる自己実現法」

場 所 ホリディイン関西空港
講 師 松 浪 健四郎 氏
専修大学教授

平成6年度臨時総会

第31回例会 (平成6年12月2日)



十三の料亭「三笠」にて開催。平成7年度の役員を決定し、次年度事業へ向けて早くもスタートを切りました。

提案された次年度役員候補者(案)は、満場一致で原案通り承認され、平成6年度に続き次年度の会長に選任された長良有芳氏を始め、全役員が一言ずつ力強い決意表明を行いました。

「吹田発アジアブランドを目指して」

～大幸薬品代表取締役社長柴田仁氏講演～

臨時総会終了後、引き続き例会では、当商工会議所の常議員で青年部メンバーでもある大幸薬品代表取締役社長柴田仁氏を講師に迎え、テーマを「吹田発アジアブランドを目指して」として講演会を行いました。

柴田氏は、自らの企業の歴史を紹介しながら、企業が事業を継続する中で遭遇する危機を、経営者が強い信念を持って判断し行動することによって、その危機は企業の体力として吸収される。決してハイリスク・ハイリターンを求める経営ではなく、できるだけ長く安定的に継続できる経営を目指すことが中小

企業にとって重要なのではないかと、そして自社製品の売上が、20～30%アップを続ける中国をはじめとするアジア市場に対する戦略にも触れ、薬事法上認可が難しい国もあるが、



世界に自社の製品を必要とする人がいる以上、あらゆる企業努力を惜しまない姿勢が重要であると、熱く語り、最後に先代社長がナショナルブランドとして確立した大幸薬品を、自分の時代には吹田の企業として「吹田発アジアブランド」を目指し、将来のグローバルブランドへの基盤をつくりたいと、自らの経営方針を語り、今後ともお腹をこわしたときは「正露丸」のご愛用を！と、しっかりPRも忘れず、聴講していた青年部メンバーの大きな拍手を受けて講演会は終了しました。

第32回例会 (平成7年2月17日)

「震災と法律」

場 所 吹田商工会議所大会議室
講 師 平栗法律事務所 所長
平 栗 勲 氏

平成7年度通常総会

第33回例会 (平成7年4月21日)

「企業間ネットワークとマルチメディア」

講 師：神 田 敏 明 氏
講師プロフィール
1961年神戸生まれ大阪学院大学経済学部卒。元MacPress 誌編集長。
神戸市マルチメディア都市構想製作。Kanda

News Network 主宰。

阪神大震災時には兵庫区の自宅で被災、インターネットを通じて被災情報を世界へ向け発信。被災地の中小企業の復興状況や新製品・新技術情報をインターネットで全世界に紹介するサービス「インター・ビジネス・ネットワーク (IBN)」を発起人として参加し企業のPRソフト作成をサポートする等、復興支援事業も。ビデオジャーナリスト。

マルチメディアという世間では騒がれているが、漠然としていてよく解らない。しかし、たとえば印刷機や電信機、無線機が発明されたときの大変化に比べてみれば、そんなにたいしたことはない。マルチメディアは現在の技術の延長上であって、どんなものが出てきてもおかしくはない。マルチメディアは、簡単にいえば、情報を発信したい人が自分の情報を発信し、情報を見たい人が探しに行き、欲しい情報を引っ張ってくるということである。それを世界的規模で可能にしているのがインターネットである。

先日の阪神大震災の時には、神戸市役所のコンピューターには1日で4万回ものアクセスがあったそうである。

震災で店が潰れてしまっている、インターネット上で店を開くことが出来る。仮想のショッピングモールをインターネット内に共同で建設し、商品紹介や通信販売をすることが出来るのである。そしてそれは日本国内ばかりでなく、全世界に向けてアピールすることが出来る。

しかしインターネットにも、アクセスの速度が遅い、料金が高い等、まだまだ問題はあ

第34回例会 (平成7年6月20日)

「築こう、YEG連携軸」

場 所 吹田商工会議所大会議室
講 師 辻 正 敏 氏
全国商工会議所青年部連合会会長

講師プロフィール

昭和26年生まれ
徳島県代表取締役・津商工会議所常議員・津YEG直前会長・商青連専務理事・副会長を経て平成7年度第13代会長に就任。

青年部6月例会では、全国商工会議所青年部連合会の辻会長を講師に迎え、青年部の連携をテーマにご講演頂きました。

当日は、吹田YEGの他に近隣会議所役員、商青連役員、府連役員も多数ご出席頂き総勢63名の出席を数え、講演テーマへの関心の高さを感じました。



講演の内容は次のとおりです。

全国商工会議所青年部連合会を略して商青連といい商工会議所青年部の事も会員個人のこともYEGという。

YEGは平成2年に制定された。

商青連は昭和54年各地に商工会議所青年部が組織され始め(最初は昭和30年京都府宮津といわれる)全国の青年部の組織化が図れないかとの意見が出始め、昭和56年に全国組織化推進委員会が日本商工会議所で各地の商工会議所青年部から25名選んで委員会を設置し、昭和58年に128ヶ所の商工会議所青年部により商青連という組織ができた。

商青連は513商工会議所の中の約400ヶ所に青年部が設置され約30,000人の会員数であるがあくまでも母体は各地の青年部である。

商青連は基本的には47都道府県から1名ずつ、相談役、会長などを含め54名が出向して商青連を運営し、運営予算としては各青年部からの年会費、国・日本商工会議所からの助成金など2,300万円の予算で活動し、主な活動内容としては青年部の全国大会、中央研修会、ブロック大会、機関誌の発行、研修(国内外)、等を行っているが今年はさらにYEG連携事業特別委員会を設置した。

予測される社会は超高齢者社会であり生産労働人口は減少し、経済界としては経済のマイナス成長化がより顕著化する。

商売とは人間が相手であり人口が減少するという事は、商売の相手が減少することであり物が売れなくなると言うことで大企業のような莫大な投資をして製品開発を進められる所は別にしても、商工会議所の会員の約99%が中小零細企業であり莫大な投資をする事は不可能であるが、指をくわえて見ているだけ

では無く、やりがいのある仕事をする事が経済人としての気持であると思う。

このような時期に青年部という組織があり、大阪府連という組織があり、近畿ブロックというものが、さらにその上に商青連というものがある。そのネットワークを使わない手はないと思う。

ネットワークを使うということは、これから人が減少していく中でお互い補完しあうことであり、自分の会社はどこが良くどこが足りないか、自分の会社のある地域は、どこがステキでどこが悪いのか、地域全体に問題があれば自分の会社がいくら努力しても商売は良くならない。

この自分の足りない部分を補完しあう相手を見つけるために、自分の情報を発信する、発信と同時に他の人からの情報を受信する、多くの人と繰り返すうちに感性を研ぎすますることができ、また行動の範囲を広げることができ他の人と補完することができる、これが連携のベースとなる。

YEGの連携事業は商工会議所青年部のネットワークを利用し、手を携えて色々な経済界の動きを作り上げることである。

昨年「ポスト4全経」策定の基本的な考え方として、地域連携軸構想が国土庁から打ち出された。これは第4次全国総合開発計画は「国土の均一な発展」であったが今回は「首都圏を向かない、大都市を向かない地域間、地方間の自主的な交流連携による新しい地区づくり」という考え方で新しい全国総合開発計画が考えられており、これは今後発展が見込めないと国は投資しないと考える考え方（限られた財源をどのように使うか）であり、県境などの境目のない経済界の人間が率先して交流連携を行うことによって、あとから社会資本がついてくる時代であり逆に言うとそれを怠っている所は衰退することになる。

危機感だけを持っているより夢の実現に動き出すときに巨大なパワーを発揮すると思う、それが1事業所ではなく1地域ではなく、1エリアではなく複数のエリアが手を結ぶことによって大きな力を出すことができる。

このように行動を起こすことが今後求められる新しい経済の動きに対する原動力になると感じている。

これがYEG連携軸であり青年部各会員の将来への連携を期待します。

第35回家族例会（平成7年8月19日）

青年部 in 神戸 8月家族例会



8月の家族例会は、阪神大震災により特に大きな被害を受けた神戸に対し、「我々青年部が何か少しでも貢献できたら…」という主旨のもと会場を神戸に設定し（アトラクションの景品も神戸で製造されている品物を選びました！）豪華客船シルフィードのAデッキ「アルパコール」を貸切り大阪南港を出発、神戸ハーバーランドへと向かいました。船内では、家族紹介など楽しい時を過ごしました。

その後、例会会場である新神戸のホテルグランドピクスタに移動、長良会長の挨拶でも家族例会の主旨説明が盛り込まれ、家族の方々にも青年部活動の理解を得られたことと思います。



例会セレモニーの後、フルコースディナー、カラオケ大会、豪華景品付ビンゴゲームと続き、会員はもちろん家族の皆さんも大変喜んでおられた様子で、特にカラオケでは子供達が活発に歌い、その歌の上手なことに感心させられました。

第36回例会（平成7年9月9日）

商青連近畿ブロック大会（高石大会）

基調講演

『磨け感性、上げよフィールドYEG連携時代』

場所 羽衣荘

講師 辻 正 敏 氏
商青連会長

記念講演

『Jリーグの経営戦略』

講師 川 淵 三 郎 氏
Jリーグチェアマン



全国商工会議所青年部連合会近畿ブロック大会が、大阪府高石市において開催され、我が青年部も例会として参加しました。

当日は午前中の開会式典に続き午後は全体会議が開催され、我々青年部の6月例会にて講演いただいた辻青商連会長の他、木村関西国際空港副社長、川淵Jリーグチェアマン各氏の講演があり、その後パネルディスカッション、各ブロック単位の討論、発表会が行われました。

参加された会員の皆様、丸1日の値でしたが得られた情報も少なくなかったことと思います。

平成7年度臨時総会

第37回例会（平成7年12月5日）

『経営者のための健康を守る食事学』

場所 サンケイ会館（大阪市北区）

講師 程 一 彦 氏
台湾料理龍潭（リュータン）の2代目オーナーシェフ
テレビ等でも活躍中の料理研究家

臨時総会においては、次年度役員選考委員会より会長候補に井村卓治氏をはじめ、3名の新人を含む17名の平成8年度役員候補者の提案があり、満場一致で承認され、平成8年度へ向けて早くもスタートを切りました。

また、関係上部団体等との連携をスムーズに行えるよう「直前会長」「特別顧問」を設置する等の一部規約改定を行いました。

引き続き12月例会では、新入会員の入会式が行われました。



例会では、程さんに「経営者のための健康を守る食事学」と題して、現代人の食文化と健康の関わり、そして、経営者として心得ておくべき食事学についてご講演頂きました。

さまざまな事例をあげてユーモアたっぷりにお話しされ、食事や料理の話題だけでなく、これからの事業経営は、今までの様な経済至上主義ではなく環境に配慮し、自然の法則に逆らわない経営姿勢が求められる時代になるだろうと力説され、その説得力ある言葉に会員の多くが、思わず頷く場面が随所に見られ、あっと言う間に講演時間が過ぎてしまいました。

その後、会場を程さんのお店「台湾料理龍潭」に移動して懇親会に移りました。

懇親会では、程さん自慢の台湾料理を存分に味わいながら健康談義に花が咲き、最初は受講したばかりの食事学を実践している人も多かったようですが、いつの間にかお酒の量もオーバーペースになってしまったようでした。

アトラクションでは程さんのお店で一日に使う食材量を当てるクイズで異様な盛り上がりになり、名残惜しいムードの内に閉会となりました。

第38回例会（平成8年2月21日）

次年度全体委員会開催

次年度へ向け各委員会引き継ぎ完了

本年度最終例会として、各委員会より本年度の活動報告と、次年度への引き継ぎ要望事項が発表されました。

それを受けて第2部の全体委員会では、次年度会長予定者の井村卓治氏（資）井村から次年度委員会配属（案）の発表があり、各担当副会長の元、室単位に会議室を分けて所属メンバー紹介、各委員会基本方針、事業計画等についてディスカッションが行われました。



青年部では、会員は必ずいずれかの委員会に所属し、委員会活動を通じて個々の会員の意見、要望等を集約し、様々な事業活動に反映させる組織形態をとっており、その委員会活動の方針や計画を練り上げる作業の第一歩として、全体委員会は重要な会議に位置づけられています。

当日のディスカッションでは、それぞれの担当事業について様々な意見が発表され、井村会長予定者が次年度のキャッチフレーズとして掲げる「元気をだして」をキーワードに熱心な討議が繰り広げられていました。

平成8年度通常総会

第39回例会（平成8年4月26日）

井村氏が会長に就任して初めての例会は、吹田さんくすホールにおいて開催、前郵政大臣で衆議院議員の井上一成氏を講師に迎えて行われた。

『北摂の開発と問題』

ＪＲ吹田操車場跡地利用について

井上一成氏プロフィール

昭和7年、摂津市で生まれる。
大阪府立茨木高校、同志社大卒。
同43年、36歳の全国最年少で摂津市長に。
同51年衆議院議員。連続7回当選。衆院沖縄
北方問題特別委員長、衆院運輸委員長。
平成7年8月から同8年1月まで郵政大臣。



井上先生の講演内容

政治姿勢や、世の中の動きについて触れた後、関西地区における北大阪圏、特に吹田が将来に向けて担っていくべき役割の重要性、可能性について熱く語られました。

21世紀に向けて、北摂を様々な情報が集散する基地とし、その中核的機能を吹田に設置することは、吹田のみならず、北摂、大阪、関西の活性化につながり、ひいては日本、アジア諸国、世界の重要な拠点と成りうる重要な開発と言える。

具体的には、ＪＲ吹田操車場跡地の国（郵政省）による土地取得、税制優遇策を伴う債券発行による開発費調達、民間主体の第3セクターによるプランニング、運営等の様々な手法が考えられる。

将来、高度情報社会が急速に進行しても、氾濫する情報の波に溺れたり、取り残されたりする人がない、ハートフルな社会をつくり出す情報拠点都市“吹田”を目指して、この問題に地域の皆さんと一緒に全力で取り組んでいきたい。

講演内容の要旨は、以上のとおりですが、あちらこちらに具体的な事例や逸話を交えて1時間余りにわたって熱弁を振るわれ、青年部の面々も、終始引き込まれるように聞き入り、あっという間に時間が過ぎて、井上先生自身も「この続きは、またの機会に」と、名残惜しそうに講演を終了されました。

井村会長から「今日の講演を聞いて吹田の

地に住み、この地で事業をしていることを誇りに思いました。特に、操車場跡地問題については、他力本願では前進は望めず、我々地元に住んでいる者が、ムードを盛り上げ、解決のスピードアップを図らなければならないと痛感し、その為にも我々はもっと勉強し青年部活動の1つとしても取り組んでいく必要があると思います。」との謝辞が述べられ、参加者からの大きな拍手で講演会は終了しました。

その他に今回の例会では、平成6～7年度にわたり青年部会長として活躍された長良直前会長に対し、その功績を讃えて井村新会長より感謝状と記念品の贈呈がありました。



青年部も創立7年目に入り、創設当時のメンバーが卒業し、新しい世代が入会して徐々に世代交替が進みつつあるようです。

例会終了後の懇親会は、3月末に完成したばかりの新名所「メロード吹田」最上階の展望レストランへ会場を移し、ご講演いただいた井上先生も参加されるなか、和やかに開催され、地上38階から見下ろす吹田の夜景を満喫しながら、吹田のそして北摂の将来像について大いに語り合い大変盛り上がりしました。

第40回例会（平成8年6月26日）

6時半より始まった例会第1部では、井村会長より、吹田まつり本祭パレードに商工会議所が参加することとなり青年部がその企画運営を担当する旨の発表があり、「徳島YEGの協力を得て本場徳島より阿波踊りの連を招聘し商工会議所を市民の皆さんにアピールしたい。」との方針が述べられました。また、「現在約1800社ある商工会議所会員事業所の会員増強を図っていきたい。」との抱負も同時に述べられました。

第2部講演会

『経営者とお酒について』

～新しいお酒の飲み方～

場所 吹田商工会議所大会議室

講師 島田 洋一 氏

島田氏の略歴

昭和16年大阪市生まれ
関西学院大学卒業後、家業の酒屋を継ぎ
日本名門酒会に加盟。
徳島商店代表取締役



“いい日本酒”に目覚め、純米酒を中心に各地の銘柄酒を集め、店舗の地下にセラーを作って吟醸酒等の試飲をはじめるとかたわら、良いお酒が飲める居酒屋を探索し、自ら「心酔させるお酒のある店」としてガイドブックを5巻出版し、大阪に集いお酒を楽しむ人々の新しい世界を創りだすことを夢見て“超こだわり経営”を実践しておられます。

全国的に厳しい環境にある酒販業界の中で“超元気”経営を展開しておられる島田氏の「元気の素」について、島田氏自ら持参いただいたお酒を試飲しながらの聴講となり、日頃の一方的に話しをする、また聴くといった講演会とは違った、和やかな雰囲気での講演会となりました。



お酒により、酔わせていく場所が違っている。
・醸造酒（ビール、日本酒、ワイン等）は
上半身から酔わす。

・蒸留酒（ウイスキー、焼酎、バーボン）
は下半身から酔わせていく。

お酒によっては良く考えて飲んで下さい。

日本酒でいいお酒は酔い方も良く、酔いざ
めもいい。

お酒はいいお酒を選びましょう。

・皆さん方でよく、甘口がいい、辛口が飲
みやすいと言った事が聞かれますが、甘口、
辛口を大別する仕方として、

・辛口…ノドをスッと通るお酒

・甘口…口の中でまろやかに感じられるも
のといった点が上げられます。

器によっても味わいが違ってくるとの島田氏
のお話しに、当日試飲したところ、コップと
盃では同じお酒でありながら全然違う味わい
となりました。当日用意された盃はこの日の
ためにわざわざ味舌さん（味舌陶房）が手作
りで焼き上げた物で講師からも絶賛を受けま
した。

日本酒を15℃程度の温度で保存すれば、何
十年間でも保存が出来、また味も落ちない。
お酒によれば長く寝かしていいものもあると
のこと。

日本酒のおいしく出来る条件として、1年
間の温度差が20℃以上の変化があること。

我が日本は四季の変化があり、日本酒のお
いしく出来る土壌にあり、そのおいしいお酒
を飲まれる皆様は本当に幸せな人…でも飲み
過ぎには注意して下さい。

第41回例会（平成8年7月13日）

大阪府連創立5周年記念事業

～YEGフレンドシップフェスタ開催～

大阪府商工会議所青年部連合会の創立5周
年記念事業が開催されました。大阪府連は、
府下の商工会議所青年部の交流と連携を図り、
各単会の健全な発展と所属する親商工会議所
の活性化に寄与することを目的に平成4年設
立され、今年5周年を迎えます。

創設以来初めて迎える大きな節目の年に、
日頃交流する機会の少なかった各単会会員同
志の交流を目的として開催されたこの記念事
業は、梅雨明け後の猛暑にもかかわらず9単
会120名を超える会員が参加して大いに盛り
上がりました。

第1部「親睦ボウリング大会」では、各単
会選抜選手による団体戦と、参加者全員での
個人戦競技が行われ、団体戦では高石YEG
が2位以下を大きく突き放して優勝、個人戦
でも高石YEGを率いる永山会長が優勝され
ました。我が吹田YEGは団体戦5位、個人
戦では常深氏の16位が最高でした。

第2部「納涼川めぐり」では、大阪水上バ
ス「アクアライナー」を2隻チャーターして
川面から夕暮れ時の大阪城～中之島界隈の景
色を楽しみました。

第3部「パノラマビアパーティー」では、
大阪ビジネスパーク松下IMPビル26階のビ
アレストランから見下ろすパノラマの夜景を
楽しみながら良く冷えた生ビールを味わい、
単会の枠を越えた親睦を深めました。

大阪府連の将来に向けて更なる飛躍の第一
歩となるこの記念事業において芽吹いた新た
な連携は、近い将来より一層強固な組織の力
に育つことは間違いのないでしょう。

さて、記念式典につきましては、今年11月
1日に関係各方面よりご来賓を多数お招きし、
あらためて盛大に開催する予定となっております。

第42回例会（平成8年10月9日）

『リーダー訓練法を

マスターしてみませか？』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 小野澤 みさを 氏

親業インストラクター

第43回例会（平成8年11月1日）

大阪府連創立5周年記念式典・講演会

『劇場化する都市』

場 所 大阪全日空ホテル

講 師 堀 井 良 殷 氏

（財）大阪21世紀協会専務理事

平成8年度臨時総会

第44回例会（平成8年12月7日）

場 所 料亭「久恵」



第45回例会（平成9年2月10日）

次年度全体委員会 次年度へ向け各委員会引き継ぎ完了

本年度最終例会として、各委員会より本年
度の活動報告と、次年度への引き継ぎ要望事
項が発表されました。



それを受けて、第二部の全体委員会では、
次年度会長予定者の井村卓治氏（（資）井村）
から次年度委員会配属（案）の発表があり、各
担当副会長予定者のコーディネートで、室単

位に会場を分かれ、所属メンバー紹介、各委
員会基本方針、事業計画等についてディスカ
ッションが行われました。

青年部では、会員は必ずいずれかの委員会
に所属し、委員会活動を通じて個々の会員の
意見、要望等を集約して、様々な事業活動に
反映させる組織形態をとっており、その委員
会活動の基本方針や事業計画を練り上げる作
業の第一歩として、全体委員会は重要な会議
に位置づけられています。

当日は、井村次年度会長予定者から本年度
のキャッチフレーズ「元気をだして」を、来
年度も継続し、「更に元気をだして」元気が出
るような活動を展開したいとの挨拶を受けて、
各委員会では熱心な討議が繰り広げられ、場
所を変えての第三部「懇親会」では、各委員
会の熱気がそのままに、隣同士で議論するの
も大声を張り上げなければ聞こえない程の盛
り上がりを見せ、久しぶりに「青年部パワー」
を肌で感じられた例会となりました。

平成9年度通常総会

第46回例会（平成9年4月17日）



青年部の平成9年度通常総会が開催され、
新年度のスタートを切りました。

井村会長は、「さらに元気をだして」明るく、
爽やかにをモットーにアクティブな行動力を
発揮していきたいと所信を發表し、具体的
な事業方針について熱意溢れる説明がありま
した。

また、来賓代表として紙谷会頭より、会議
所事業の多くを青年部が担っており、更なる
活発な活動を期待していると挨拶があり、大
きな拍手が贈られました。

『取り戻せた笑顔』

～メンタルヘルスマネジメント～

講師 岡本 常男 氏

元株ニチイ副社長

(財)メンタルヘルス岡本記念財団理事長



岡本氏が自らの体験を元にお話しされました。プラス指向によるアクティブな行動力は、メンタルヘルスマネジメントにおいても重要なことで、正に井村会長の所信と通じるものがあり、納得できる講演内容でした。

第47回例会 (平成9年6月16日)

青年部公開講演会

『杉本清のサラブレッド的経営論』

講師 杉本 清 氏

昭和12年に生まれ今年60歳。関西学院大を卒業し、関西テレビに入社。競馬実況アナウンスの神様として有名になり定年退職、今はフリーでバラエティー番組（ハンマープライス、お台場競馬）で、レギュラー出演

場 所 吹田商工会議所大会議室



テレビやラジオで杉本氏のアナウンスを聞いたことのある人は、堂々とした雰囲気、激みない口調から、きっと少年の頃からくつき

り目立った思いがちですが、内気な幼年時代を過ごしアナウンス部に入部したのも方言のため人と話すのが恥ずかしいので何とかしたかったため。他の部員は高校から訓練を積んで活躍の場を見つけるための入部。優秀な人ばかりで自分の出番がないと見切りをつけた人は、どんどん退部するので2年たち3年過ぎると数名になり出番が回ってきた。

何とか関西テレビに縁があって、現場のお手伝いばかり1年、2年と続き、希望を失って退職する人もでる中、杉本青年は特に不安を感じることもなく穏やかな日を過ごした。

ある日突然アナウンスの仕事が回ってきたときには、さすがにうれしくて両親、友人に話すと内気な杉本清君を知っている人たちはびっくりしたり、心配したり。

そうこうしているうちに、今度は競馬の実況アナウンスの仕事。それまで競馬のイメージは、暗くうさんくさい、マイナー、が通り相場。自分の仕事場として通ううち、目も慣れ興味もわいてきて、実況となると、とんでもなく楽しい。

思い煩って絶望することなく、失敗を重ねているうち、いつしか名アナウンサー。

退職後のことはなにも考えず忙しく定年、今度の依頼はバラエティー、とても出来そうもないとお断りしても是非にとのことで、やって見ると意外に評判がよい。

今振り返ってみると、自分でこれと決めてやったことはない気がします、とのことでした。

このほか、放送局のこと、視聴者のこと、名馬のこと、興味深く有意義なひとときでした。

第48回家族例会 (平成9年8月23日)

『工場見学とビールの試飲会』

場 所 アサヒビール吹田工場ゲストハウス

第49回例会 (平成9年10月20日)

青年部公開講演会

『大変革時代の経営戦略』

講 師 佐々木 正 氏

プロフィール：
大正4年に生まれ

シャープ株の元副社長
シャープ株顧問、ソフトバンク株相談役
著書には「はじめに仮説ありき」「電子立国日本の突破口」があり、
勲三等旭日中授章を授章されています。

一般会員の皆様にも、広くご聴講していただけるよう公開講演会にしました。「20世紀の産業界は、microを研究し発展をとげた。



21世紀にかけての産業界は、nanoの研究が進み発展するだろう。」(ミクロという単位は100万分の1メートルを表す語で、ナノは10億分の1メートルの単位を表す語です。)というお話や“気”の研究についてのお話など、これからの時代を展望するうえで非常に有意義な講演会でした。

平成9年度臨時総会

第50回例会 (平成9年12月11日)

場 所 ハートランド江坂「車」

第51回例会 (平成10年2月4日)

『元気の出る歴史教育』

場 所 吹田商工会議所大会議室

講 師 東京大学教育学部教授
藤 岡 信 勝 氏

平成10年度通常総会

第52回例会 (平成10年4月17日)

『初心に (これが青年部だ)』

場 所 江坂「本館路」

第一部総会

上田哲新会長は冒頭の挨拶で、初心に帰り

全員一丸となった青年部づくりの所信を表明。緊張気味ながら、誠実でさわやかな言。

議案審議は上田議長のもと、豊田・寺西・東・池田・好見各氏らの報告・提案により滞りなく終了。



第53回例会 (平成10年6月23日)

『長浜市のまちづくり』

『博物館都市構想』に学ぶ』

講師：社団法人長浜観光協会

統括マネージャー

清 水 義 康 氏



長浜は城下町・港町・門前町・商工業の町でした。歴史の多様性（フトコロのふかさ）のある町だと思っています。秀吉の自由都市政策を背景とする、町衆（市民）の合議の歴史があります。昭和50年代、商店街の落ち込みは激しく、ガケつぶちに直面していたと言います。

まちづくり元年・観光元年は昭和58年。長浜城の再興と開館記念イベントが契機でした。城の建設費は市民の寄附で4億5000万円、これは総費用の約40%に相当します。また人口5万余の長浜市に10日間で52万人も集客できたことは自信と期待をもたらしました。

まちづくりの理念は、長浜らしいモノやコトを

掘りおこし、マチ全体を博物館のように魅力ある空間にしよう、そして市民みんなが来街者に説明できる「学芸員」になろうというものでした。

具体的整備として、第一に「大通寺」門前通りの整備。アーケードの撤去、セットバックの実現、石畳化など。商店街のファサードが整備され風情（ふぜい）あるものとなりました。これは、市と県の財政的援助、地元のリーダーの協力が効を奏したといえます。

第二に黒壁ガラス細工の導入。名所であった「黒壁〔の〕銀行」の買取りが黒壁スクエアの第一歩でした。市が4000万円、民間が9000万円（民間人8人）の出資。第3セクター、株式会社黒壁の設立です（S.63.4）。商品としては、歴史文化性・国際性・地場産業（ちりめん）とパッティングしないものと考えて、暗中模索の中でガラスを選びました。当初日曜の2時～3時で人が4人と大1匹であったのが、年間180万人位の観光客が来るまでにりました。

第3セクター成功のポイントは

- ① カリスマ的人間がいたこと
- ② 政ではなく、身を削った貨幣を出した民間メンバーがリーダーシップをとったこと
- ③ 女性を登用・活用したこと（現在女性100余名、男性5名）があげられます。

まとめとして、「住みよい街」がまちづくりの基本です。長浜は吹田市等と比べて適当な規模（小さい）のまちづくりであり、官民協同がとりやすかったと思います。また、58,000人の市で年間1億ほどの寄附金を集めてもいます。なお、新しいイベントとして55才以上のシルバースタッフによる「プラチナブラザ」を誕生させております。

質疑応答も活発。謝辞は好見副会長。清水氏の若々しくキレ味のよい口調と実際の内容、文化・歴史の視点は魅力的で大いに示唆を受けました。また、かかる才人を登用し活躍させている所に成功のポイントを感じました。

閉会後、「てんまる」にて懇親会。清水講師、柴田副会長も臨席し、終始和やか賑やかでした。青年部、易にいう「沢雷随（たぐらいずい）」の6月。先駆者に従って学び、力を蓄える時でした。

第54回家族例会（平成10年8月30日）

真新しい施設、また、今津町が吹田市と姉妹都市ということもあり、当地の野外活動センターで開催。

役員会の議論の中で、見知らぬ方々との出会い、さらにそのご家族との出会いは楽しむのに結構勇気がいるものだから、身近なもので、という意見もあったが、ゆったりしたスケジュールでそれなりに、それぞれの交流もできたように思いました。



第55回例会（平成10年11月4日）

『みんなで考えよう吹操跡地問題』

吹田操車場跡地利用に関するパズセッション



吹田市役所から、都市整備部・里理事、まちづくり室・奥野室長、産業経済室・堀端参事と永治主幹が招待を受けてご出席。

まず上田会長から本例会の趣旨説明。本年度「吹田再発見」の大テーマのもとに取り組んでいるが、吹操跡地問題は大きなキーポイントである。これについて市役所の皆様のご協力を得て「吹田まちづくり勉強会」を実施してきている（7月14日、9月28日）。今回、皆さんの将来への想いを出してほしい。と。

次に、本テーマを具体的に担当、推進している大枝副会長より経緯と利用計画の現状説

明。

各5・6名、計6グループに分かれ、跡地利用についてのパズセッション。全員が自由に意見を発表し、討論し、模造紙に書きとめました。テーブルのリーダーは「吹田まちづくり勉強会」のメンバーが担当。45分間。

各グループのまとめを代表者が5分間程度で発表。多彩な内容を少々ご紹介。

・市民の憩いの場／日本のラスベガス／地下を大駐車場、上を回廊／南北をつなぐ地下道／交通アクセス整備／未来型（元気な老人用）総合文化センター／未来型工場誘致（工業（場）団地）／桜並木／千里ニュータウンの再生用地／行政はいつまでもタッチしない／オリンピック競技場／貿易センター（中継地点）／見本市会場 etc.

パズセッション・発表を終えて

吹田市役所・里理事より感想。「楽しく聞かせていただきました。これから皆様のお知恵・お力をお借りしてゆきたい……」

上田会長による総括。「皆さんの意見は、①施設をつくる（商業施設等）、環境・緑地（高齢者に対する福祉、文化、スポーツ施設等）、②都市の活性化（吹田市再開発、例えばニュータウン代替地としての宅地化）に分かれる」「このテーマは来年度も発展的に考えてゆきたい。青年部、あるいは商工会議所全体として行政とも手をとって前に進んでゆきたい。」

柴田副会長（突然のご指名での）感想。

「商工会議所と行政とが親密に会合を持たせて頂き、商工会議所がまちづくりに対する能力、情熱を持てると感じている。いい方向に向いてきている。」

閉会の辞、池田副会長。

11月例会、パズセッションの初めての試み、意見も活発。長い準備も含めて、青年部の真面目（しんめんもく）を発揮した例会であったと思います。

平成10年度臨時総会

第56回例会（平成10年12月11日）

『松下幸之助に学ぶ強運のつくりかた』

講師 北 本 良 行 氏
（易号・光峰）

北本氏は、松下幸之助氏が「経営の神様」と呼ばれるほど成功された背景を、松下電器産業に在職中から紹介・講演されてこれ、この日はポイントを絞って、次の3部作でお話された。

第1部は、幸之助氏の人生をふり返って。俗に、成功の条件を「高学歴」・「健康」・「財産」と申しますが、氏には全部なし。4才で父親破産、9才で働き、22才で「フタマツソケット」考案……中略……という氏の人生は「何もない強さ」であったといえましょう。

第2部は、氏の思想・哲学。これを次の3つに要約できると思います。

- ① 大きな目的を明確に定めること【ビジョン】。松下では「水道哲学」、即ち安く多くのモノを（社会に）広めたいというものでした。
- ② 運が強いと信ずること。
- ③ 正しい言葉・行動・考えを持つこと。

氏は「すなおな心」という表現を使っています。もう1人の自分（深層の心理・自分）＝「神」を味方にしてゆく。神の加護、力を120%発揮させることにつながってゆくのです。

第3部は、「易」のこと。

氏は運命論者であり、易の思想・自然の摂理に従っておられました。「運命」というのは、定まったもの（＝宿命）ではなく、天から授かった命（めい）をどう運んでいくかという生き方のことです。氏には加藤大観という参謀・師がおられました。

最後に、成功の秘訣を――

それは、成功するまで続けることです。

第57回例会(平成11年2月26日)

『デビュー秘話 ～笑王へ～』

場所 吹田商工会議所大会議室
講師 オール阪神氏



講師は“オール阪神”氏。「デビュー秘話～爆笑王へ～」と題して、デビューまでのご苦労話やサクセスストーリー、業界のウラ話などを、流石に楽しく講演されました。例えば、7つの笑いのパターン/運気(素質)のある者とカケ事をすると勝てない/何かに運をつかうと何かがなくなる/コンビ(の人間関係)ではいかに相手をあやまらせるよう会話することが大切/前の芸人が笑いをとったとき、その余韻が終わってから自分が出ていく etc. 直接経営に関する話ではありませんでしたが、対人関係や処世の上で参考になる点も多くあったように感じました。

例会終了後、同所にて懇親会。

平成11年度通常総会

第58回例会(平成11年5月13日)

3月末に、我々青年部の上田 哲会長が亡くなられた。心からご冥福をお祈り致します。今後も青年部は故上田会長の意思を受け継ぎ、更なる飛躍に向けてがんばっていきます。江坂『サニーストーンホテル』において、通常総会・5月例会・故上田会長を偲ぶ会が開催されました。約50名が集い、新規事業の嚆矢(こうし・スタート)にふさわしい盛会となりました。

第1部総会、開会。故上田哲会長に黙禱。

また、来賓を代表して紙谷会頭から、青年部諸氏が立派な経済人として成長するようにの言。

議案審議は井村議長のもと、大枝新会長の選出。選出後、大枝議長のもと池田・寺西・家村・好見各氏らの報告・提案により滞りなく終了。

第2部4月例会。卒業会員に大枝会長より生田氏の絵画の記念品を贈呈。

第3部、柴田氏の献杯の発声にて故上田会長を偲ぶ会。故上田会長の奥さんとお母さんのお礼の言葉とお話をお聞きし故会長をまさに偲ぶ会となりました。閉会の辞、足立顧問。



産業フェア

第11回産業フェア

(平成6年5月14日・15日)

オリジナル企画

『企業対抗バンド合戦』も大成功

第11回からは青年部が産業フェアを主催する吹田産業フェア推進協議会のメンバーの一員として本格的に参画してきました。

実行部隊として活躍した青年部を代表して、井村副会長と産業フェア委員会の金子委員長に今回の産業フェアについて伺ってみました。

新しいイベント誕生

柴山：今回青年部は、企画の段階から主にイベントに重点を置いて取り組んでこられ、オリジナルイベント「企業対抗バンド合戦」を誕生させたわけですが、どんなことがきっかけとなりましたか？

井村：すでにイベントとして毎日放送の公開録画「素人名人会」が決定しておりましたので、若者をターゲットにしたイベントはないか。吹田市内の企業を市民にPRするという産業フェアの趣旨に沿って、吹田の企業がベースとなり、社長から従業員までが参加できるイベントはないか。というところで、昨年の第10回の時に出場して頂いた摂津信用金庫のバンド「ストロベリー」に大きなヒントを得ました。ひょっとして他の企業の中にもこういったバンドがあるのでは、ということがきっかけになりました。

とにかく やってみたいと

柴山：不安はなかったでしたか？

金子：やはりイベントなので、正直言ってやってみないとわからないですよ。また今回、20組の応募を募りましたが、実際に集まるかどうか？イベントとしての出場バンドのレベルに問題はないか？ 動員は大丈夫か？など色々ありました。

柴山：終わってみてどうでしたか？

金子：お蔭様でゲストバンド1組を含む16バンドの出場で、レベル自身も皆さん日頃から練習を積んでおられ大変立派なもので、会場も大勢のお客さんで埋まりましたので安心しました。また今回、吹田ケーブルテレビジョンも事前に各バンドのPRや当日の様態をCATVで放映して頂き、イベント自身の格もあがり、何よりも出場バンドの皆さんのいい刺激になり、やりがいにもつながったと思います。

来年の見通しは

柴山：ズバリ来年はいかがでしょうか？

金子：バンド数を増やすのか、1バンドの持ち時間を増やし、バンドの質の向上を図るのか等課題も出てきました。今回を踏まえて皆さんのご意見を伺いながら、なんとか今後も続けていけるよう前向きに検討したいと考えています。もし来年も実現すれば、青年部としてもバンドを組むことができればと思います。

全体的には

柴山：バンド合戦以外はどうでしたか？

井村：今回は特に、2日目の早朝からあいにくの雨天と天候に恵まれず、ミニステージは中止、素人名人会は大混雑しましたが、青年部の各委員会の皆さんも仕事の合間を縫ってお手伝いに来て頂き、何とか乗り切れました。早い者は朝7時から、また青年部の多くが8時に集合し、夕方遅くまで本当によく頑張ってくれました。

柴山：今日はお忙しい中ありがとうございました。今後の活躍もさらに期待しています。

▲トピックス

池田氏、冷静・沈着な判断でスタッフを指揮

「スタッフの青年部も素人です。でも私の置かれた立場を認識し、物事をスムーズにすすめようと何とか皆で協力しあいました。スタッフは大変機敏に段取り良く動かれていたと思います。」

素人名人会で1,000人斬りの上田氏

「開場2時間前、お客さんはすでに1,000人を超えていたと思います。皆さん足元の悪い中せっかくお越し頂いたもので、速やかにご入場頂きご覧頂こうと、ごったがえすお客さんの誘導に必死でした。お並び頂く所が外になり大変申し訳なく思いました。」

第12回産業フェア

(平成7年5月11日・12日)

『産業フェアとともに』

吹田産業フェア実行委員会

委員長 瀧川 紀 征

吹田産業フェアが今年も多くの人を集め、盛大に開催する事ができました。ご協力いただいた吹田市、商工会議所、各団体、出展事業所等各位に厚く御礼を申し上げます。

また、フェアを支えてくださったスタッフの皆様、特に実行実務者として精力的に活動していただいた商工会議所青年部の皆様には重ねて厚く御礼を申し上げます。

12年前、吹田産業展として旭町通りにあるビルの3階で初めて開催されてより今回まで、このように盛大な催しになるには主催者のみならず、関係する全ての人々の知恵と情熱の結集があったからこそ、このように立派に成長できたと思います。



当初の産業展の来場者は会期中で延6千人程度といわれていました。夏の暑い時期のせいでもありましたが、あまり活気のない静かな催しでした。行きづまりを感じ、開催目的を問われるなかで会場をメイシアターに移し、人集めのイベントを取り入れ、さらに産業フェアと改称して年々その内容を充実させることによって来場者が飛躍的に増加し、市制50周年記念の第7回産業フェアが現在の原型となりました。想い返せば新しいアイデアの可能性を探り絶えずそれに挑戦し成功させてきた積み重ねが今日の隆盛を築いたものと確信しています。今後も青年部諸君の英知と行動力に胸の高鳴る期待を寄せています。

第14回吹田産業フェア (平成9年5月10日・11日)

青年部企画運営イベント大盛況

ジェネレーションギャップを痛感...

「お笑いコンテスト」

この人の入り・さすがは目玉イベント

「市民メディアコーナー」

こんなに出ました

5月10日～11日の両日に渡ってメイシアター及び市庁舎駐車場で開催された第14回吹田産業フェアは、2日間共に晴天に恵まれ、過去最高となる5万5千人の来場者数を記録しました。

毎回産業フェアで様々なイベントを企画運営している青年部では、今回も新規イベントを2つ含む5つのイベントを担当しました。

初日の土曜日は、メイシアター中ホールを会場とする新規イベント「お笑いコンテスト」を開催。従来より不足していると言われていた中高生の集客力を補強するため、最近の若年層の支持が高い「お笑い」をコンテスト形式の公開イベントとしたもので、一般公募等により応募があったプロを目指す24組のアマチュア漫才コンビが出演し、日頃の練習成果を発揮して、熱気あふれるお笑いライブコンテストとなりました。当日は、開場2時間前から司会者、ゲストの熱狂的なファンが並び始め、スタッフ一同どうなることかと心配する一幕もあり、開演から終了まで約3時間にも及ぶ長丁場にも関わらず、客席は当時8割以上の入りを保ち、入れ替わりを含めた延べ観客数は、700名を超えと思われ、用意したプログラムも不足してしまいました。企画運営を担当した当の青年部スタッフ誰もが、素人の「お笑い」がこんなに観客を動員できるとは、正直思ってもみなかったと、口を揃えていたのが印象的でした。皆さん、時代に取り残されないよう頑張ってください！

今回、もう1つの新規イベントとなる「市民メディアコーナー～電脳遊園地～」では、マルチメディア関連の出展企業ブースを1か所に集めて配置し、プレゼンテーション特設ステージを設営して、多くの来場者に気軽に体験してもらえ、イベントを2日間に渡って開催しました。開催ぎりぎりまで調整が行われ、本番当日はスムーズな運営ができるか心配されましたが、各プレゼンとも予定どおり進行し、小さな子供たちから、ご年配の方々まで、多くの来場者の皆さんが最先端のマルチメディア体験を楽しんでいる様子が随所に見られ、参加された企業担当者からも、興味を持った来場者が多く、各ブースでも熱心に質問し、比較的滞在時間の長い来場者が多かったと好評でした。産業フェア実行委員会でも、このイベントは今回のフェア全体における目玉イベントの1つとして注目されていただけに、来場者、出展企業ともに評価いただけたのは何よりです。ちなみに、商工会議所も1ブースこのコーナーに出展しており、1SDN回線によるネットサーフィン体験していただくと共に、全国各地の会議所間をつなぐ「商工会議所インフォメーションネット

ワーク構想」(CIN)についてPRし、会員企業をはじめ企業関係者の注目を集めることができました。

前回のフェアでも好評であった「特設ミニステージ」「企業対抗カラオケ大会」「元気のある企業の就職面接会」も、前回以上に趣向をこらして内容充実を図り、参加企業、集客数共に前回は上回る結果となりました。

産業フェア視察研修会 (平成9年9月27日～28日)



9月27日～28日の2日間、産業フェア視察研修会として福井県武生市及び鯖江市を訪れました。参加者は15名。武生市も鯖江市も会場は「サンドーム福井」で開催されました。

武生市は、9月13日～15日まで、鯖江市は、9月26日～29日までと接近した日程で行われ、それぞれの地域の持つ特殊性、異なる歴史を生かした催しになっていました。武生市も、鯖江市も商工会議所が大変力を入れています。また、市も資金の提供をはじめ積極的に取り組んでいました。



イベントでは、地場産業に関連するものが多くあり、武生市ではニットファッションショー、鯖江市では日本めがね展や、越前漆器展覧会、ファッションショー等が行われ、ドームも内外を使い活発でした。地域の中にある学校が参加しているイベントもありました。去年、今年と研修会を重ねたことで、吹田産業フェアがますますよいものになっていくこ

とと思います。

第15回 吹田産業フェア (平成10年5月9日・10日)

青年部企画運営イベント豊かにして盛大



5月9日・10日の両日、吹田市文化会館メイシアター及び吹田市役所駐車場で、第15回吹田産業フェアが実施されました。天候にも恵まれ大いに盛況。

青年部は、今回も様々なイベントの企画運営を担当いたしました。

■ミニステージ：9日、10日にわたり、いずみの国公園に特設。吉田ジョージ・木田加津子さんの司会。10日昼、小雨で一時的に中断したものの、おおむね天候に恵まれ、人気No.1のビンゴゲームをはじめ、各種クイズなどで終始賑わいました。

■お笑いコンテスト：9日、昨年に引き続き中ホールで「海原やすよ・ともこ」の司会で若人たちがお笑いの腕を競いました。ゲスト出演「中川家」。

■元気のある企業の就職説明会：9日、レセプションホール。14社が参加。真面目で緊張感のあるイベントとして今回も良好。

■市民メディアコーナー～トキメキ電脳空間～：9日、10日昨年に引き続き展示室。マルチメディア関連出展企業ブースを集めて設営。老若男女に気軽に先端技術を体験してもらうことができました。

■吹田市PTAコーラスフェア：10日、大ホール。新規のイベントとして、知恵を出して

準備を進めてきました。市内の幼・小・中のPTAコーラス13団体、計262名の参加を得ました。ゲスト出演「関西大学グリークラブ」。「吹田市PTAコーラスフェア大賞」は、吹田第一小学校PTAの「女声合唱団 コール・ブリランテ」。

“東京ディズニーランドへの旅”を目玉とする大抽選会では上田会長を先頭に青年部諸氏が賑やかにステージに立ち、有終の美を飾りました。

産業フェア実行委員長 瀧川紀征氏、副実行委員長 野元朝夫氏、柴田仁氏、全体実行責任者 上田哲青年部会長、また足立善信青年部顧問ら各氏は随所に顔を出して、産業フェア全体をまとめていただきました。

10th anniversary
YEG
'89-'99

研修事業

経営研修会（平成2年7月8日）

学生時代からDPEの世界に取り組み20代の後半ですでに100店舗のフランチャイズ「フジカラープラザ」をかかえる「青年実業家・大島康広社長」の話はその実績を持つ重さと、理路整然と組み立てられた話題、その中にキラッと光る独特の感性を感じさせ、60分の講演時間が非常に短く感じられました。

第2部は、「自社事業分野の定義付け—貴方の会社は本当は何業でしょうか?—」というテーマで経営ディスカッションを行いました。これは経営戦略の立案を取り扱うものです。参加者がAチームからDチームまでの4チームに別れ、チームリーダーの指導のもとに自社の商品を機能と顧客のニーズで分析しその延長線上にある事業分野また、別の分野へのシフトを模索するというものです。

活発な意見交換の後、チーム単位でそれぞれの会社につき事業分野の発表をしましたが本当はこれから先が問題だと思います。ここが入口で自社の進むべき方向を模索し検討することになります。

第1回企業訪問（平成3年6月）



経営委員会開催の企業訪問が、広芝町の横ロスコ住まい創研（代表取締役 佐藤善秀氏）にて行われました。

入口を入った1歩から、他社に類を見ないショールーム、独創的な社の方針通り隅々までの気配りと主張が満ちておりました。

取扱商品の素敵なテーブルを囲みながら、佐藤社長より、創業よりの歴史（創業3年）と企業としてのこだわりの説明、企業経営の講演を聴きました。

異業種の多い青年部会員の参加でしたが、全員が次々質問等させて頂き、出席会員それぞれに感銘を受け、有意義な成果を得ることができました。

予定時間もすぐ経ち、なごりを惜しみつつ散会いたしました。

第2回企業訪問（平成3年9月）

経営委員会の企業訪問が、高城町の柳中西硝子工芸社にて開催されました。

中西硝子さんは、主に、化粧品容器（主として硝子瓶）へのガラスプリント（印刷加工）をしておられます。

ガラスプリントの工程を工場の中を案内して頂いて、見せて頂きました。清潔に整頓された工場で効率良く印刷された瓶が、電気焼成炉の中を580~600℃の温度で焼き付けられ、箱詰めされます。

そのあと、中西社長から会社やこの業界の始まりから現在に至るお話しをして頂き、ディスカッションになりました。ここでは、異業種の青年部会員から、人材確保、労働集約的な小ロット生産を効率良くするための問題等を中心に熱心な討論が行われました。

予定の時間もかなりオーバーするほどで、大変大きな成果を得ることができました。

第3回企業訪問（平成3年12月）

経営委員会の企業訪問が、豊津町の柳ダスキンにて開催されました。

青年部 in 大飯発電所（企業見学会）

（平成6年7月9日・10日）

関西電力㈱のご協力を得て、青年部・企業見学会を開催しました。

今回の見学会は、青年部メンバーのご家族の方にも参加を呼びかけ実施されたもので総勢42名の方が参加されました。

炎天下の続く中、天候の心配もほとんどなく、一行を乗せてバスが吹田を出発しました。

まず、最初に訪れた所は「関西電力 大飯発電所」です。その中の“エル・パーク・おいおい おおいり館”という見学施設を先に見学しました。

ここは、原子力発電所の心臓部を3分の1サイズで再現しているところで、原子力発電所の仕組みと役割を体感することができます。

ここで全体構想をよくイメージしておかないと、原子力発電所の施設の規模が大きすぎて理解しにくいと思われました。

厳重なチェックを受けて、巨大な原子炉建屋、タービン発電機、中央制御室などを見学しました。中でも一番驚いたのは、燃料プールで使用済みの燃料棒を置いてある部屋が見学できるのですが、厚さ40cmの鉛ガラス越しに見学することでした。バスでさらに構内を進み、発電所内を車窓見学しました。とにかくあまりの大きな施設に感心しました。

その日は宮津市内の旅館に宿泊し、翌日は宮津エネルギーランドへ行きました。

エネルギーランドは、宮津火力発電所の構内にあり、風力、波力、太陽熱など、新・省エネルギーの研究と併設する水族館等が見学できる施設となっています。中でも発電施設よりも大規模なのが、公害を出さないようにつくられた排煙施設でした。

その後バスは、日本三景の一つの天橋立の観光となり、楽しい2日間を無事終えることができました。

経営委員会 第一回勉強会

(平成7年7月12日)

「企業防衛と保険」



講師に大同生命保険相互会社の増子課長をお招きし、事業承継における生命保険の役割と企業における必要最低保障額の検討についてご講演頂きました。

企業の事業承継については、相続との関係が大きく、財産分配アンバランスによる相続争いが多いようです。

相続税が支払えない場合、自社株の処分による現金化が遅けられません。しかも、相続財産がほとんど土地の場合は分割が難しく、たとえ処分ができたとしても、譲渡所得税が

かかります。

そこで、その対策として生命保険を活用すれば、法人は役員に、受取人が法人の生命保険をかけることにより、役員退職金の原資とでき、遺族は死亡退職金として相続税支払いの原資とできます。

保険には色々な種類があり、企業の立場、個人の立場で有利な保険を確認し、企業防衛のために役立てなければなりません。

事業承継は、相続と異なり、経営者の意志によって経営権を原則として一人に受け継がすわけですから、相当な期間をその準備に当てたいものです。



私たち受け継ぐ立場の者として、次の世代への事業承継、相続の問題を改めて考え直す良い機会でした。

経営委員会 第二回勉強会

(平成7年10月7日)

「あなたの病気が会社を潰す」



経営委員会主管の勉強会が行われました。講師に、よしのクリニック院長吉野光也先生をお迎えし、安心して経営に専念できる健康づくりを目標として「成人病」に関する講演を頂きました。

出席者の皆さんは健康づくりに対する意識

が高く、活発な勉強会となりました。

第一部の講演では、糖尿病と合併症・大腸癌・ウイルス性肝炎・緊張型頭痛等について専門的なことまで解りやすく説明を頂きました。糖尿病を防止するためには理想体重としてBMI指数*を22に近づけることだそうです。

*体重(kg)÷身長(m)²

また、大腸癌を防止するためには50才を過ぎたら定期検診を受けることが大切だそうです。

第二部では、出席者各自が問診表を作成して成人病要注意度を確認したり、成人病に関する理解度をチェックしました。出席者青年部会員の中にも要注意に該当する方が数名おられました。

最後に質疑応答が行われ、肥満・痛風・癌と免疫・予防治療等について活発な意見交換が行われました。

講師の総括論として、過食・運動不足になりがちな現在においては、健康維持・増進の強い意志を持ち、良いと思うことは実行に移し、定期的な診断を行うことが重要だと言うことで締めくくられました。

経営委員会 第三回勉強会

(平成8年3月5日)

「インターネットを体験する」



アップルセンター江坂に集合致しました。当日は、暦の上では啓蛰というのに、チラホ

ラ雪の舞い下りる寒い日となりました。

しかし、当日のテーマが「インターネット体験」ということのためなのか、研修室には席を補充するほどの人気で、熱気にあふれていました。

妙齢な女性インストラクターによる、パソコン初心者向けの講義から始まり、いよいよインターネットの実演に移ると、参加者全員が身を乗り出し画面に集中していました。

全世界に瞬時にアクセス出来るインターネットでアメリカ、ヨーロッパ、日本、そして各企業や自治体との画面を、次から次に提示して頂き一同驚嘆の声を上げていました。

特に沖縄県のホームページにアクセスすると、太田知事がクリントン大統領に宛てた地位協定に関する要請書が、ボンと写ったのは印象的でした。



これは全世界の人々が同時に、この画面を見ることができ、意見を伝えることも出来るようになっていました。

各企業、各家庭でパソコンと通信モデム、そして各地域のプロバイダーと契約するだけで、簡単に全世界とアクセス出来るインターネットが話題になることがよく理解できました。

更にプロバイダーによっては、アクセスするのに時間がかかったり、情報の通路はあるがインターネット自体が管理制御されていないという実態も体験出来ました。

参加者の中には、よく精通されている方、そうでない方、商売に利用したい方、楽しみたい方、様々な感覚で参加されていたので、アップルセンターの方も少々焦点が絞れず説明にお困りのようでしたが、参加者全員、目の前で様々な画面が飛び出すバーチャルリアリティー体験が出来、興奮しながら家路となりました。

指導力委員会 公開講演会開催
(平成7年11月10日)

【松下幸之助とその経営理念】

場 所 吹田商工会議所大会議室
講 師 藤P H P 総合研究所
代表取締役 石 橋 太 郎 氏

講演要旨

- ④ 松下電器が門真に進出した理由
- ⑤ 40才前後の松下氏の経営手腕とその指導力
- ⑥ 事業拡大に伴う企業合併について
- ⑦ 不況期における対策
- ⑧ 熟海会議等について



事前に質問させて頂いた事項を秘話等をまじえながら巧みに講演のなかに折り込んで頂きました。わずか3人ではじめた事業が多くの人々の参加を得て20万人以上のグローバルな企業に発展成長させていくためには経営理念の確立とそれらを世間内外に訴え周知徹底し続けることの大切さ、その根源には人間に対する限りなき愛情と信頼と期待があり、また人間は熱く燃える使命感があればその目的に向って意気高く一途に誠心誠意努力すれば必ず目的を達成することができるという信念の大切さを認識しました。

講演の最後には講師の石橋先生より松下幸之助氏とともに50年歩んでこられた松下正治著「経営の心」の書物を参加者全員に寄贈頂き講演内容のすばらしさとともに一同二重の喜びに電化製品を買うなら松下と思わず言ってしまうような大満足の講演会でした。

ホームページ開設 (平成9年5月1日)

5月1日より吹田商工会議所のホームページを開設しました。(ドメイン: <http://www.infomart.or.jp/suitacci>)

今後内容の充実を図り、会員企業を始め市民の皆さんに、最新の情報を提供して行きたいと考えています。また、「吹田」を広く全国に紹介していきます。ご期待ください!

インターネットセミナー開催

(平成9年6月23日)

～自社ホームページ立ち上げを目指して～
江坂アップルセンターのご協力を得て、今話題のインターネットセミナーを開催しました。

青年部では、今年度の重点事業の1つにインターネット活用研究をあげており、親会である吹田商工会議所のホームページ立ち上げに合わせて、プロジェクトチーム「青年部インターネット研究会」を設置して青年部のホームページ

<http://www.infomart.or.jp/suitacci/yeghome.htm> も立ち上げ、活用方法の研究に取り組んでいます。

今回の研修は、経営委員会が主管し、インターネット研究会が協力する形で開催され、対象者をまだ体験していないメンバーに置いて、初歩的な内容から始まり、自ら端末を操作してネットサーフィン体験するまでを2時間で修了するという、欲張ったカリキュラムを強引にアップルセンターさんにお願ひして企画されました。

当日は、用意した10台のパソコンに対して16名の参加者があり、予定された講義を終了してからもなかなかパソコンの前から席を立とうとしない参加者も多く、講師の先生からも「オールナイトで続けましょうか」と冷やかされ、慌々ながら閉会となりました。

インターネットセミナー開催

(平成10年1月20日)

【ホームページ事例研修会】

講師 : 岸 本 榮 司 氏
(有) イージー代表取締役

経営委員会 経営ケーススタディⅠ
(平成8年9月10日)

*トヨタセルシオは、満点の車。でも何が...



この年の経営委員会の基本方針は「せっかく入ってきたのだから、金もうけをしよう」。とにかく、会員に金もうけのできるような企画を提供できたらと考え、結果、まじめに、経営の勉強をしようということになり、神戸大学経営学部加護野忠男教授に相談。大学院生が講座で取り組むケーススタディを、実践の経営に携わる会員を対象に行ってみよう、との企画がまとまり、今回はその入門編。

50歳前現役バリバリ、元気溢れ、数々の著書を発刊され、先日もプレジデント8月号にソニーとホンダの論文が掲載されていた加護野教授は、その期待通り、実に分りやすくまた、ユーモアたっぷり。自称「経営漫談」と仰るだけあって、久々に、2時間もの講義を受けた参加者も、全員教授の話に酔ってしまった。

しかし、その内容も充実したもので、企業経営に必要なコンセプトの話題であった。欧州の自動車会社へゼミ旅行で訪問した折、学生の「日本のセルシオはどう思われるか」との質問に、技術担当者は、「あの車は、走行安定性・安全性・静寂さ・機能性などの性能をとっても、世界一の水準にある素晴らしいマシンだ。しかしあの車にはコンセプトがない。」と答えられたという。何のために乗るのか、乗って何をするのか、顧客に本質的な価値とは何か。どんな価値を与えるのか、という主張がないと物は売れない、と言うことです。

コンセプトがはっきりしている例として、ドーナツショップ・ファミリーレストラン・ファクシミリなどの例を上げられ、それぞれが、対象となる顧客層を適格に把握し、そのニーズに応じた対策をされていることを示さ

れた。また、成功するための秘訣として、

- ① 真に商品の事を考えてくれているユーザー＝リードユーザー(決して大量に買ってくれる客ではない)の意見を聞くこと。
 - ② 目的の追求をすること。
 - ③ 事実を確認すること。
- を上げられ、当り前のことを地道に正面から取り組むことの大切さを説かれて講演を終了した。

コンセプトとは:

誰に どのような価値を 提供するのか
そのために何をすべきか!

経営委員会 経営ケーススタディⅡ

(平成8年10月15日)

― 社長自身が本気になれ! ―

1ヵ月前のセミナーでは、コンセプトを確立し、当り前のことを地道に行うことが企業経営のコツであるということ、事例を交えて教授に講演頂き、今回は、スカンジナビア航空(SAS)の経営成功事例の資料を下に、メンバー同志で討論する所謂ケーススタディが行われた。

経営危機に陥っていたSASを再建するために社長に抜擢されたヤン・カルソン氏が、どんなコンセプトで半官半民のような企業であるSASに挑んだか?そして、なぜそのコンセプトが社内・特に現場の人々に徹底できたかということ、主題に討論を行った。

この日に備えて、資料の原本を仕入れ、熟読して準備してきた出席者、さらに特筆すべきは、事例集を読むだけでなく、実際の経営者の事例を自ら探そうと、さくらタクシーの社長に電話でコンタクトを取り、直接社長と経営論を戦わせ、後日面談の約束も交わしてきた出席者など、熱心なメンバーが加護野教授のコーディネイトで議論を戦わせた。

ポイントは、

- ① 社長自身が本気になって、自分が立てたコンセプトを全従業員に徹底させること。そしてそのために、お金・時間をかけることを惜しまないこと。
- ② 現場で判断させるために、権限を委譲すると共に、現場に責任を持たせること。
- ③ 指示するには、指導者が優先順位をはっきりとさせてあげること、などであった。

正副会頭との懇談会

若手経済人の活躍に期待

(平成4年7月14日)

吹田商工会議所・紙谷会頭と

足立青年部部長が対談

吹田商工会議所において、紙谷豊重会頭と足立善信青年部部長の対談が行われました。これからの商工会議所の運営や青年部のあり方、あるいは企業経営などについて、大変有益な意見が交わされましたのでその概要をご紹介します。

会頭職の役割・内容

足立 商工会議所の会頭になられて、なにかとお忙しいことと思いますが、対談の機会をつくって頂き有難うございます。ところで早速ですが、商工会議所の会頭職というのは、どのような役割、または内容となっているのでしょうか。

紙谷 会頭に就任してからまだ1年も経っていないし、今までは専ら会議所会館の建設に力を注いできた。したがってこれまでは会頭の役割とか立場について、ゆっくりと考える余裕がなかった。しかし、商工会議所法とか定款によれば「会頭は商工会議所を代表し、所務を総理する」となっている。即ち、会頭は商工会議所の代表機関として団体、行政庁、商工業者に対して、商工会議所を代表して各種の活動をする事となっている。他方、会頭は商工会議所の最高執行機関として、商工会議所内部にあっても、所務全般を総理する立場にある。

この外、会頭は議員総会や常議員会を召集し、その議長となる権限を有している。

このように会頭の職務はきわめて重要なので、自分としては会頭はいかにあるべきか、会頭として何をなすべきかをよく考え、これからの行動を律したいと思っている。

会頭の経営観・郷土観

足立 会頭は一代で吹田を代表する紙谷工務店を築き上げられたと聞いておりますが、会頭の経営観とか郷土観をお聞かせいただければ幸いです。

紙谷 自分は農家の10人兄弟(妹)の長男で、昔のこととて若い時に軍隊に入り、年期を勤めて帰ってきた。農業だけでは十分に食っていけないので、農閑期などに工務店の人夫として働きに出たりした。そうこうして勤めて

いる間に番頭のような立場になったが、勤務先の社長が亡くなられたのを機に退社し、自分で独立して土建業を始めた。

自分で仕事を始めてから紙谷はまじめだからということ、市の仕事ももらえるようになり、段々と仕事が増え人も増え自分も仕事に意欲が湧いてきた。弟が学校を卒業して営業を担当するようになってから仕事も更に増え、古くからの建設業者と肩を並べられるようになり建設業協会の会長も7～8年勤めた。

このようなことで企業経営について格別勉強したこともないが、まじめで人に信頼される人にならねばと今でも思っている。社員教育も特別のことはしていないが、社員はいつも社長の後姿を見ているもので、私も社員に対して社長の後姿を見て仕事をせよと言っている。

郷土観としては、自分は江坂で生れ江坂で育ち、江坂には身内も多いので最後まで江坂のため、吹田のために頑張りたいと思っている。

足立 大変謙遜されたお話しで、会頭のお人柄がうかがわれ感銘を受けました。有難うございました。

青年部活動に対する感想

足立 吹田商工会議所青年部は、設立されてから3年になります。この間の活動状況は、設立当初のご期待に沿っているのでしょうか。ご感想をお聞かせください。

紙谷 青年部の活動状況については、担当副会頭等からも聞いているが、きわめて活発に活動していることは承知している。当初期待していた以上の成果を挙げていると思う。これからも若手経営者の啓発、商工会議所の活性化のため引き続き頑張ってもらいたい。大いに期待している。

商工会議所における青年部の役割

足立 青年部は今後商工会議所の事業にどのように協力していけばよろしいのでしょうか。これからのご期待も含めましてお聞かせください。

紙谷 宿願の会館ができたので、これからは大いに会員の増強に努め、会議所基盤の強化を図りたい。また、会員の交流を促進するとともに、会員が会議所の会員になって良かったと実感できるような事業を活発に展開したいと考えている。

吹田の将来にとって旧国鉄操車場跡地開発問題はきわめて重大な影響がある。地域振興

の観点から、商工会議所としても委員会をつくるなどして研究に取組みたい。

市内商工業の発展や地域振興については、商工会議所が中核となって促進するということ、商工業者のみならず一般市民にも認識していただけるよう頑張りたい。

会議所事業について青年部にどのように協力していただくかについては、青年部担当の山出副会頭とも相談しながら考えていくが、青年部としても意見、要望があれば申し出てほしい。

青年部への支援を期待

足立 青年部は7つの委員会と役員会や例会で、月10回位は会館を利用している。会合は仕事の都合で夜が多いし、会合の案内文の発送や資料の整理等、職員の方にも多大なご負担をおかけしています。

また、青年部として会費を集めているが、事業が増え会費だけでは賅いきれないようになっています。

青年部がこれからの発展と活躍を目指すためにも、物的・人的援助が必要と思われますがどのような対応をお考えでしょうか。

紙谷 言わんとすることは分らないでもないが、会議所も業種別に6部会があり部会活動をもっと活発に行う必要がある。会館は建設できたが、その運営費がどの位かかるかも現段階では把握できない。会議所の事業、会館運営、財政、人の問題等についてこれから総合的に検討するところであり、もう少し時間を貸してほしい。いずれにしても前向きに考えているということで今回は了解してほしい。

足立 前向きに考えるというお言葉を頂き、大変心強く思っております。本日はお忙しいところわざわざ時間をさいて頂き、有益なお話しをお聞かせ頂き有難うございました。

正副会頭と懇談会開催(平成7年6月2日)

～ビジョンについて活発に意見を交換～

青年部の長期計画室では、7年度の基本方針を「商工会議所との連携強化を図り青年経済人としてメリットのある事業展開を要望、提案すると共に、将来を見据えた青年部の指針を採る」と定めて活動しております。

この度、その趣旨をご理解頂き、当初より事業計画に上げておりました正副会頭との懇談会を開催することができました。

当日は、和やかな雰囲気の中、将来に向

けた商工会議所活動の長期ビジョンや、その中における青年部の位置づけ等について、活発な意見交換が行われました。

正副会頭からは「若い世代の人達と将来に向けた積極的な意見交換ができる良い機会だった」と好評で、青年部としても将来への指針となる多くのヒントを得ることができ、大変有意義な懇談会となりました。

正副会頭と懇談会開催(平成8年6月14日)

青年部担当事業について活発な意見交換

毎年恒例となりました正副会頭と青年部の懇談会が開催されました。

当日は、和やかな雰囲気の中、青年部が担当する商工会議所事業(産業フェア、ゴルフ大会、吹田まつり、創立50周年記念事業)における青年部の関わり方や今後の運営方針等について、活発な意見交換が行われました。

正副会頭からは「若い世代の人達と将来に向けた積極的な意見交換ができる良い機会であった。会議所の運営にも、こうした若手経営者の意見・要望を反映していくことが、「魅力ある会議所」に向けた活性化につながると思う。年1回に限らず、必要に応じてこうした意見交換の場を持つ必要があると思う。」との高評を頂きました。

青年部としても、具体的なアドバイスを数多く頂き、また、会議所への要望についても前向きに検討する約束を頂き、大変有意義な懇談会となりました。

商青連・渉外特集

箕面 YEG とボウリング大会開催

(平成8年2月26日)

～近隣 YEG との連携にむけて～



箕面商工会議所青年部より、近隣青年部同志として情報交換と親睦を兼ねてボウリング大会を合同で開催したいとの要請があり、商青連スローガン「研げ感性、広げフィールド YEG 連携時代」にも沿った事業でもあり、是非成功させようと双方役員が意気投合し、みのおボウルにおいて開催されました。

当日、吹田からは新旧役員から有志をつのって10名が参加し、総勢32名で熱戦が繰り広げられました。

残念ながら団体戦では箕面 YEG が圧勝、個人戦では上田副会長の4位が最高で、飛び賞には7位に西形氏、15位に足立氏が入賞との結果に終わりましたが、大会後、箕面スパーガーデンで行われた懇親会では、和やかな雰囲気の中情報交換が行われ、次年度も同様の連携事業を開催することについて積極的な意見で盛り上がり、熱さめやまぬうちに閉会となりました。

青年部大阪府連定例理事総会

(平成8年5月17日)

～創立5周年記念事業計画承認～

江坂「サニーストンホテル」において、加盟9単会の理事等51名が参加し、大阪府商工会議所青年部連合会「平成8年度第5回定例理事総会」が開催され、新役員の選任、事業計画、予算について審議を行い、提案された原案どおり満場一致で承認されました。

平成8年度は府連創立5周年を迎える年度であり、足立会長(吹田 YEG)のもと、記念事業の開催、全国商工会議所青年部連合会と

の連携等を重点項目に据えた事業を展開していく計画となっています。



第14回近畿ブロック大会

(平成8年9月7日)



商青連、日本商工会議所主催による第14回近畿ブロック大会が開催され、吹田 YEG からは、13名出席しました。日本商工会議所稲葉会頭の挨拶から始まり、役員紹介では、足立特別顧問が研修第1委員長として紹介されました。商青連の役員は、55名で構成されており全国ネットの規模の大きさを実感しました。



第2部記念事業では、通商産業省大臣官房情報管理課長 八幡和郎氏の「21世紀の関西を

見つめて」をテーマとした講演、比叡山麓三宅盛住氏 柏木寛昭氏の「経済人(商売人)としての哲学」と題した講演で、ためになる話を聞く事が出来ました。なかでも柏木寛昭氏の「普段よく口にする言葉や風習は、仏教と深い繋がりをもったものが多い」というお話は、非常に興味深いものでした。

充実した中で、10時から始まった大会も夕刻を迎え懇親会の時間になり、大津市長の山田豊三郎氏も出席されました。

11月15日に開催される奈良全国大会、年明け2月の全国会長研修会、第15回近畿ブロック大会の加西、それぞれ趣向を凝らしたアピールで結束の強さを感じさせ、雰囲気盛り上げていました。

今回出席に当り青年部の繋がりや深さと、その気になればどんどん横の繋がりが広がるんだ、ということを感じました。

YEGヤングリーダー研修参加レポート

(平成9年6月13日)



第1回 YEG ヤングリーダー研修が開催された当日は、梅雨期にもかかわらず朝から好天に恵まれ気持ちの良いスタートとなりました。

吹田 YEG をはじめ北大阪、箕面、守口門真、八尾、和泉、高石、泉佐野、岸和田の9単会からの参加なり、足立商青連副会長の地元として、全国の YEG に大阪府連の存在を大いにアピールいたしました。

第1回目の研修会場となったホテルは、地下鉄半蔵門駅より直通で便利が良く、皇居や国会議事堂を望む位置にあり、全国規模の行事にふさわしい雰囲気と緊張感の漂う中、大イベントとなりました。

大村商青連会長の熱気に満ちた挨拶でセミナーは始まり、稲葉日商会頭の特別講演へと移っていきました。この中で会頭は、日本経済についての現状認識を示され、これからの

日本経済の在り方について長いスパンで展望していくことの重要性を説かれたのが印象的でした。



続いて第1講はタナベ経営社長、田辺昇一氏の講演で、我々青年経済人の抱える欠点や問題点を鋭く指摘、さらに今後日本或いは世界において起こるであろう様々な状況について非常に的確な分析と予測を展開され、最後に経営者として求められる行動や判断に関して助言とヒントが含まれた説得力のある提言で締めくくられ、1時間40分が非常に短く感じられました。

また、第2講はテレビでおなじみの政治評論家、森田実氏による日本の政治の現状についての講演で、評論家としてあまりマスコミで言えないような裏の話までユーモアに満ちた口調で講演され、日頃不快な思いのする政治の話、非常に身近な我々市民の問題として取り上げられた姿勢には、研修参加者全員好感を持って受け止められていたようでした。

さらに研修終了後、研修参加者の交流会が開催され、全国 YEG のメンバーは旧友との再会のような雰囲気の中で出会い、次の研修での再会を約して散会しました。

全国各地より錚々たるメンバーが参集

(平成9年7月11日)

全国商工会議所青年部連合会役員会開催

～全国各地より吹田の地へ役員参集～



全国各地の青年部を取りまとめる全国商工会議所青年部連合会(商青連)第104回役員会が、7月11日～12日の2日間に渡りこの吹田の地で開催され、全国各地より出向している商青連役員並びにオブザーバー、そして日本商工会議所事務局の総勢92名の皆さんが、会場となった吹田商工会議所会館及びメイシアターに集まりました。

従来、商青連の役員会は、日商(東京)及び会長出向元の会議所で開催されており、それ以外で開催されるのは、例がないとのことですが、今年度重点事業の1つである「YEGヤングリーダー研修」の第2回会場が大阪となっており、時期的にも定例役員会と近いことから、開催日を合わせることで役員等の旅費負担軽減を図るため、吹田YEGより中地区担当及び研修委員会担当副会長として出向している足立氏に会場設営の依頼があり、吹田での開催となりました。

当日は、日本列島に強い梅雨前線が横たわり、あいにくの天候となりましたが、朝9時過ぎから早くもメンバーが集まりはじめ、会議所館内では元気の挨拶を交わす声があちこちで響き、騒然となりました。

しかし、会議開催間近ともなると異様な緊張感が館内に漂い、予定通り11時に開会すると同時に白熱した審議が行われました。

会議スケジュールは大変過密で、午後4時までに正副会長会議、委員長会議、ブロック代表理事会、各委員会、ブロック別役員会等13の会議と6つの委員会を、役員が担当別に分かれ、移動しながら議事をこなし、最終の役員会に提案する議案を練り上げなければなりません。一人一人が各都道府県を代表して出向し、役員として発言するため、議論も自然と熱がこもってきます。

しかしながら、定刻通りそれぞれの会議が進行されていくのには、正直驚きました。

各議長の議事進行手腕は勿論、出席者各々が立場をわきまえ、前向きに協力して少しでも良いものを求める姿勢が、スムーズな進行を支えているようです。

今回の役員会での主な審議事項は、平成11年度全国大会と、平成10年度全国会長研修会の開催地選定でした。

無事役員会が終了した後、会場を江坂東急インに移して懇親会となりました。オブザーバーも含めて100名を超える大懇親会となり、アサヒビール吹田工場より直送した生ビール

100リットルも、あっという間に飲み干してしまい、吹田YEGが用意した3つの二次会場に流れ込んだ役員の皆さんは、夜更けまで吹田の夜をご満喫いただいたようです。

明けて翌日は朝9時から11時40分まで2つの会議をこなした後、カレーライスを流し込んで阪急電車に飛び乗り、「YEGヤングリーダー研修」会場となっている梅田新阪急ビル12階スカイルームに開会10分前に滑り込み、夜の交流会をはさんで翌日昼12時30分まで研修会を運営するという、2泊3日(3泊4日の方もありました)のハードスケジュール。

この3日間、全国各地から集まった、地域を支える気概・情熱を持った次代を担う若い人材と直接交流し、そのパワーを実感する機会を得たことは、吹田YEGメンバーにとって、素晴らしい刺激になったと思います。

平成10年度「YEGヤングリーダー研修」 (平成10年6月20日)

場所：京都パークホテル

全国商工会議所青年部連合会主催「YEGヤングリーダー研修」が開催されました。

北は北海道網走から、南は沖縄那覇からのYEGの会員と商青連の役員で、総勢200名の規模の研修会が始まりました。その数もしく、今回集まった会員の表情の真剣さと熱気に圧倒されそうでした。

最初の講師の先生であった 榎場製作所の会長 榎場雅夫氏(74歳)の講演を拝聴して大変感動致しました。京大3年生当時からの会社の経営に携わってこられた、ご自身の経験から、今回の不況のこと、日本の国際化の件、日本の経済の悪しき習慣。21世紀は「個の時代である」。人間はいかにすばらしいか。そして、人間はいかににはかないものなのか。等を解りやすく、かつ、面白く教えて下さいました。

特に、「自分の哲学を持って」という部分では、自分の仕事は天から与えてもらった物であると言う自覚と、この件に関しては、絶対手を染めないという実践が、自己の哲学を確立する手法である。世界のトップビジネスマンを養成している、アスペン研究所(北米)でも徹底的に、個人の基本的生き方を哲学書から学ぶことから始めている。このお話は、非常に参考になりました。また、よく聞くマズローの5段階の欲求に関しても、全く違う角度から、非常に面白く解説して頂きました。更

に、「貴方が、この世に存在しないならば、この世の中の何が、どのように変わりますか?」の質問には、自分の中ですぐに答えられない自分を発見し、情けなく感じました。講演終了時の質問の時間に、上田会長が講師の先生のいい忘れた箇所を即座に指摘し、講師の方を慌てさせたことは、会長も真剣に聴講していた証と思いました。

2番目の講師の方は、28歳から会社を設立して、年商40～50億の企業に成長させたイタリアード社の社長 北村陽次郎氏(49歳)でした。ご自分の回りの方から聞かれたお話が多かったですが、その中でも、厄年には、神社に参詣して厄を払う、断つといわれるが、人の役に立つことが、本当の厄を断つことになる。この話は、丁度、本厄を迎えていた私には、ぴったりのお話で、大変参考になりました。

講演終了後、受付で抽選した同じ番号を持った人たちが集まり、「21世紀に生き残るためには」をテーマにKJ法によるディスカッションがあり、同じテーブルの全国の仲間と知り合いになることが出来ました。

近畿ブロック鯖江大会参加 (平成10年10月16・17日)

10月16日・17日(金・土)、第16回商工会議所青年部近畿ブロック鯖江(さばえ)大会に参加し研修と親睦をはかりました。

1日目朝9:00、吹田商工会議所集合、バスにて出発。台風接近中にて雨。

「日本自動車博物館」、「ゆのくにの森」見学を経て、山代温泉着。泊。上田会長は途中別行動をとり会長会議出席の後合流。宿「瑠璃光」。



2日目小雨。9:00出発、鯖江文化センターへ。

10:30 記念式典開始。大阪府・京都府・

兵庫県・和歌山県・奈良県・滋賀県それに福井県(開催地)を中心に約1,000人の青年経営者が集いました。

足立顧問の機転のおかげで、柴田仁副会長が来賓席に招かれ、大会の中で紹介されました。

13:30より記念講演。松下政経塾前塾頭・上甲見氏による「不況は大チャンス」。

要旨は次のようなものでした。

①初心に帰れ(少しの仕事も大切に、お金を使うな、心を使え)、②自分(自社)の都合でなく、お客さまの都合で商売せよ、③マイナスからプラスへ(悪い条件も生かせ、回り＝不況のせいにしない)、「鳴かぬなら、それもまたよしホトトギス(松下幸之助)」etc.

引き続き分科会。テーマ「いい仕事してますか」。各業種別に会場に移動し、6～8名のグループに分かれ、経営観やこれからの仕事に対しての方向性を意見交換しました。

17:30～総合体育館にて懇親会。テーマ「食の宝庫 福井」。たけふ太鼓・おどり、ジャズ演奏、料理実演(マクロ調理)等、趣向をこらした賑やかなものでした。全国大会(青森YEG)PR、次年度近畿ブロック大会(奈良YEG)PRもなされました。

18:30～懇親会の終了を待たず、会場からバスで帰途につき、速やかに22:00ごろ商工会議所に帰着。

YEG 全国(青森)大会参加 (平成10年11月6日)

北方へ。11月6日 早朝、関西空港から青森へ。飛行機は、大阪YEGの貸し切りのようなもの。足立顧問は前日から青森入り(浅虫温泉泊前泊合わせ会)。

午前。大会会場①青森文化会館着、登録受付。上田会長、足立顧問は、大会会場②ホテル青森にて商青連諸会議・会員総会に出席。私は文化会館・分科会にて「青森ねぶた祭りとその風土」に出席。内容は講演2つ。

夕方。大懇親会が、大会会場③「ねぶたの里」にて開催。北国の野趣豊かに、ねぶた祭りの風情も演出して盛況。「まるごと「あおもり」」のテーマを十分に満喫。

7日朝。青森市文化会館。まず石原慎太郎氏による記念講演。テーマは「日本の可能性」。硬派然としながらも「裕次郎の兄の石原慎太郎でございます」とユーモラスに語り始め、日本(人)の古き良きものと、その発展の可

能性があることを文学味も持たせて熱く講演した。最後、福沢諭吉の「立国は公にあらず、私にあり」で結んだ。

引き続き記念式典。オープニングは津軽三味線。全国から3,000人もの青年経営者が集う。

次年度開催地、新潟県。昼過ぎ式典終了。

自由時間を利用して青森を散策もした。縄文時代の大集落で有名な「三内丸山(さんないまるやま)遺跡」、版画家「棟方志功記念館」、

「八甲田山」、青森観光物産館「アスパム」。

夕方、6:00青森空港発が、1時間延びる。夜、3名帰阪。

上田会長はお役目を果しながら、くったくなく人々と語りし親交を深め、足立顧問は役職柄多々の親善の労を気づかい、共にお疲れ様でした。

トピックス

経済ミッション'92(平成4年10月15日)

訪問先 中華民国(台湾)
期 間 '92年10月15日(木)～
18日(日)

経済ミッションは昨年の韓国に続いて2回目。全日程雨模様のため決して満足のいく旅行ではありませんでしたが、その分じっくり経済視察、観光が出来たように思います。

第1の目的であります経済視察の方は、台北貿易中心(トレードセンター)を訪問し、中華民国政府経済部、商務部、貿易局の方々との懇話会。また、貿易センター内の出店企業の見学。ただ数が多いので全て見る事が出来なかったのが残念でした。

また、台北青年経済会の方々との夕食懇話会では、台湾の方のお酒の強さには驚かされました。変わった飲み方としては、トマトジュースにビールを入れて飲んでいました。イッキ、イッキの連発で吹田のメンバーは全員ダウン。

第2の観光の台北市内では總統府、中正記念堂、国父記念館、龍山寺そして故宮博物館。また、花蓮では太魯閣峡谷、大理石工場、阿美族の踊り等、数多く見てまわりました。

台湾には今まで以上に学ぶべき点、見るべき点も多く、今後も定期的な交流が必要だと感じました。今回は5名のメンバーの参加で少し淋しかったのですが、次回は数多くのメンバーの参加を希望します。きっと満足されると思います。

資源リサイクルセンターに 「くすのき」を寄贈

(平成4年6月)

商工会議所青年部は、平成4年5月の「吹田産業フェア」でバザーを催し、その収益金で吹田市資源リサイクルセンターに「くすのき」を1本植樹し、寄贈しました。

なお、寄贈された「くすのき」は、同センター正面入口の階段下左側に植樹されております。



パソコン同好会誕生(平成5年12月)

パソコンを使いたいけれども使いこなせるだろうか、買ったけれども使えないのでそのままにしている、ソフトをもっと上手に使いこなしたい、いろいろなソフトのことを知りたい、ということなどを楽しく情報交換しましょう。

こうしたおもしろい「パソコン同好会」の誕生につながりました。パソコンに強くなろうパソコンというものは本来、だれでも簡単に使えるもの、使えるようになっていなければならないですが、インストールが簡単にできないとか、パスを指定が、FEPがAUTOEXEC.BATが、CONFIG.SYSがとか、初めて使うときに突き当たる壁の大きさにうんざりされた経験をお持ちの方はたくさんおられるはずです。また、いろいろなソフトがあって自分にとってどのソフトが使いやすいのか、ほしいのかを見極めることは時間と労力をたくさん必要とし、あらゆるソフト(アプリケーション)に精通するのはまた大変なことです。そういったことをお互い話できれば、パソコンを使いこなすうえで役に立つのではないかと思います。

青年部海外研修 上海経済視察
(平成6年9月24日～27日)



現在、上海では開発が急ピッチで進められており、毎日突貫工事が行われています。

東京の大手ビル会社が96階建てのビルを建設しているほか、76ヵ所でビル建設が進んでいます。環状道路、橋2本、トンネル2本(内1本は地下鉄使用)等、アクセス整備も順調で、また日本とシンガポールの中間に位置しているため、第2空港を造り両国を空路2時間30分で結ぶ計画もあります。

企業進出もめざましく金融機関80社近くが事務所を設置(内30社が銀行)するなど、その数2,299社。全従業員が中国の方で日本人は社長のみ、技術力は現地開発という企業もありました。

上海市浦東新区は、全世界に開発・開放されており、広大な土地に全世界の企業が集まりつつあります。上海市浦東新区管理委員会が、資料請求等に対し何時でも回答してくれます。(FAXでの依頼も可能です。)

住所：上海市浦東大道141号浦東新区
国際交往中心

TEL：(021)8788388—2213

FAX：(021)8780987

中国・海門市から
経済貿易商談会一行が来所

(平成6年10月7日)

10月7日、中国・海門市の市長を始めとする代表団10人が吹田商工会議所を訪れ、会員企業有志との懇談会が開催されました。

海門市は、揚子江河口北岸の街で、上海市の対岸になります。人口は約100万人、今までは繊維と農業が主体の町で、100軒以上の紡績工場があり、年間1千万着の服飾製品を生産し6割を海外に輸出しています。農産物では豆類が有名で、今後は海外輸出も検討されて

いるとのこと。

ここ数年は、工業の充実をはかり、電子工業や軽工業、冶金、機械、建材などの分野が飛躍的に発展しています。

今年からは市に昇格するとともに、本格的に輸出拡大と海外企業の誘致に取り組まれている。

6日には吹田市を表敬訪問され、翌7日に総勢10人が来所、会員企業の方々と熱心な話し合いが行われました。海門市内には日本企業の進出に備えて、かなりの工場用地が確保されており、50年間の借地契約になるとのこと。

義援金をたずさえ西宮へ
～復旧活動中の西宮青年部を激励～
(平成7年2月2日)

メンバーから緊急に集めた義援金を持って、長良会長と、池田副会長は、職員と共に復旧したばかりのJR神戸線に乗り込み、西宮駅から徒歩で約15分に位置する西宮商工会議所を訪問しました。

周辺の被害は勿論、会議所の会館自身も2階ピロティー部分が完全に倒壊して正面玄関をふさいでしまい、裏口からしか出入りできない状態にあり、ライフラインも電気しか復旧していない中、事務室でお互いに立ったままではありましたが、西宮青年部の浅尾文昭会長(今津港湾役所)及び事務局長の耕谷弥洲氏らと会見することができました。

長良会長より、青年部の皆様の復興のために使って欲しいと、メンバーから集まった義援金747,220円に名簿を添えて手渡し、今後の復興にもできる限りの協力を約束して慌ただしい西宮商工会議所を後にしました。

その後、市内を約1時間ばかり歩いて回りましたが、商店街、市場はアーケードを残して店舗は跡形もなく倒壊し、1階部分が押しつぶされて近づけない店舗がいたるところに見られ、アメのように曲がったガス管の口が歩道を向いてぶら下がり、もしも吹田市で同程度の震災が起こっていたらと思うと、背筋の凍る思いで、口数も少なに帰路につきました。

青年部では、1月17日早朝に発生した兵庫県南部地震による被害の甚大さを深刻に受け止め、被害の大きかった兵庫地区に自宅を持つメンバーの安否確認を急ぐとともに、地震発生から3日目の1月20日にはメンバーに対

し義援金の募金活動を開始しました。

また、募金(862,962円)頂きました青年部メンバーの皆様はほとんどの方が、自らも何らかの形で被災されているにも関わらず、率先してご協力いただいております、本当に暖かい善意の気持ちがひしひしと伝わってきました。

【新入会員から一言】

(平成7年4月入会)

榎橋会計事務所 榎橋 渉氏



TAXES ARE WHAT WE PAY FOR CIVILIZED SOCIETIES (税金は文明社会を作るために払う)という言葉がアメリカ国税庁の正面に刻み込まれているそうですが、わが国も文明国であると自認するならば、国民は租税法律主義のもとに公平に税金を負担するのが原則であります。しかし、現実には税務行政面において税務当局と納税者との間に種々のトラブルが発生し、そこで「独立した公正の立場」の税理士が登場となるのですが、報酬は納税者から頂戴している関係上、納税側の弁護をする結果となり、さんざんへりくつを並べた末「これ位でいかがでしょう」と商売のかけひきのようなりとりをする。すると相手も疲れてきて「まあいいでしょう」とあきらめ顔。これで一件落着となるわけですが、果たしてこれでよいのでしょうか。

前述のアメリカのように立法機関に充実した調査員制度のないわが国では、政府の諮問機関である税政調査会という学識経験者や財

界人などの税務行政の現場とはおよそ無縁の人が提案し、国会はこれを鵜呑みにするという形で税法が制定されるわけですから、国民のコンセンサスが得られないのは当然の結果と思われます。

課税の公平とは非常に難しい問題ですが、国民の納得がいく租税制度が実現しないかぎり、我々税理士のかけひきも必要なのかも知れません。

八尾YEGより義援金受領
(平成7年6月20日)



6月例会において八尾商工会議所青年部から「阪神・淡路大震災」に対する義援金278,987円を吹田商工会議所青年部宛に頂きました。

平成7年11月、貴重な義援金の有効な活用方法を検討しておりましたが、人口と生活機能が密集する大都市を襲った震災の現実を、歴史資料として次代を担う子供達に伝え、防災教育の一助となることを願って、記録資料を市内55の公立小中学校に吹田市教育委員会を通じて寄贈させて頂きました。

<寄贈物品>

「映像記録 阪神大震災」(VTR)、
「阪神大震災全記録」(報道写真集)、
「大地震の前兆」(地震前兆実例集)、
「黒い虹」(震災遺児作文集)以上 58点

ベトナム視察研修会日誌(平成7年11月)

青年部 西山 浩 司

関西国際空港を離陸、紀伊水道を経て、国外に出る。台湾を真下に見て、南シナ海を南西に飛ぶ約5時間の空の旅。

やがて美しい海岸線が見えてくる。そこはバイクとアオザイの国ベトナム。VN-941便はタンソンニャット国際空港に降りる。ここ南ベトナムには四季がない。とにかく暑い。

タラップを降りて正面開閉のへんでこなバスに乗り込んで車窓に目をやると、どこかで見覚えのあるバスが走っている。それは左ハンドルに身を変えてはいるが、まぎれもなく日本国神戸の市バスである。イミグレーションブースは予想通りの手際の悪さ。少しでも短い列へとめまぐるしく移動してみるがどのゲートも長蛇の列だ。荷物を受け取ると税関の検査はやはり厳しい。特に通信機(携帯電話)等はサランラップ?でぐるぐる巻きの哀れな姿となって封印されてしまう。

我々は小柄な現地ガイドの女性と伴にマイクロバスでホーチミンCITYへ。もちろんこの女性はライトブルーのアオザイを着ている。ベトナム女性の正装の服だが、下着がまるっきり透けて見える。本人曰く、少しも恥ずかしくないとのことだが、目のやり場に困る。ここは良識のある社会人として、見て見ぬふりをする。

道路にはバイクと自転車が溢れ、そのわずかなすきまをバスはすりぬけて走る。企業視察では、国家資本主義経営(国家資本と民間資本の合併)の中での激しい競争と急激な経済成長の現実を目の当たりにした。

熱心な企業視察の後、ホテルに戻ってネクタイを外しての夕食、ベトナム料理は我々の口に合う。物見遊山気分では足りないのはホーチミンから70km離れた所にあるクチの地下トンネル、当時のゲリラ戦の苦しさ、すさまじさをいやが応でも肌感じてしまう。

4日目には国内線で一路首都ハノイへ。ここはホーチミンと違って社会主義のにおいのする街(とは言っても、ベトナムは社会主義共和国なのだが)で四季もある。また、中国文化の影響をかなり受けているらしくやたらと漢字が目につく。人の顔つきまで南の方とは違っている。ここでは、ホーおじさんことベトナムの民族的英雄ホー・チ・ミン廟を見学。夕食は中華料理を食した。

翌日の企業視察で、全日程が終わり、23時45分発のVN-940便で我々は眠らない空港(関西国際空港)への途についた。駆け足の5日間ではあったが、ベトナムのパワーを感じる事はできた。しかし、この笑顔の女性ホンさんとさえポートピープルとして国外脱出を試みたのはさほど昔の事ではない。

吹田まつり本祭パレード参加

(平成8年7月28日)

～本場徳島より「阿波おどり」招聘～

ひらけひろがれ市民の輪。吹田の夏といえば「吹田まつり」。今年も酷暑の7月27日と28日に、市内5会場で吹田まつりが開催されました。

本商工会議所は、吹田まつり共催5団体の1つであり、また実行委員会の構成メンバーでもあります。まつりの企画、運営への参加のみで、これまでパレード等の催しには参加したことはありませんでした。

そこで、今年は催しにも参加して、商工会議所を広く市民の皆さんにアピールするとともに、まつりを大いに盛り上げようと、「阿波おどり吹田商工会議所連」で本祭りパレードに初参加しました。

会頭・副会頭を先頭に横断幕を持ち、会議所旗を掲げた役員・議員23名による堂々の行進。それに続く本場徳島の阿波鳴連の一行と青年部・会員47名による踊りの一団。軽快なリズムとダイナミックな踊り。沿道の見物人の喝采を浴び、大いにまつりを盛り上げました。

「家族会」(平成9年11月2日)

場所：豊能郡能勢町の汐の湯温泉
栗拾い、椎茸狩り、バーベキュー、温泉入浴と盛り沢山の一日を楽しみました。当日は晴天、山下駅に早く着いたので汐の湯温泉までの10キロを歩いて散策。一庫ダムや紅葉も美しく、来てよかったと思いました。もちろん、栗も椎茸もおいしくいただきました。ひさびさにお会いするメンバーの方々の子どもの成長ぶりも楽しく拝見出来ました。

創立50周年記念事業(秋季)に協力参加

(平成10年10月6日・9日)

新たな発見を目指して、吹田商工会議所創立50周年記念事業が行なわれています。青年部は、その実施に全面的に協力参加しました。記念式典・祝賀パーティーが、10月6日、14:00～17:00、オオサカサンパレスにおいて開催されました。商工会議所職員と青年部が一致団結協力して、受付・案内・記念品渡しなどを行ないました。



2階「星雲の間」での式典では各種の表彰が行なわれました。式典終了後、1階「オービットホール」にて祝賀パーティー開催。多数が集う中、青年部諸氏が受付・記念品渡しの役割を果たしました。盛況のうちに無事終了。

宴終了後、紙谷会頭、柴田副会頭ほかご歴々と、商工会議所職員、青年部一同で、ほっと慰労の小宴の一時も持てました。

特別講演事業として、10月9日19:00～吹田市文化会館メシアター大ホールにおいて、田原龍一郎氏『時代を読む』を開催いたしました。

約1,200名の参加を実現し、同ホール満員盛況の近來稀なイベントとなりました。この盛事の会場整理を中心に、青年部一同円滑な進行のため尽力いたしました。

青年部海外研修報告(中国の海南島)

(平成11年2月18日～21日)

青年部 好見 平治郎

開催日程の決定後に判明したことは、旧正月であること、さらにはこの休日を利用して江沢民国家主席が海南島に滞在するかもしれないことなどがわかり、さらに日程の変更について検討しましたが、最終的にはこの日程にて開催することとしました。

研修先は、日系企業が正月休みのために見学など出来ず企業の立地場所を外から見せていただきました。

その後、北部の海口から南部の三亚に移動しながら、各地の開発を見学しました。

海南島は1988年に広東省から分かれて海南省になりましたが、当時は多くの外国資本が入り、リゾート開発を争って行ない、バブルの崩壊以降、開発は止まってしまっています。島中に建設途中のままで放置されたビルがあり、市内を移動するといくらでも目にすることが出来、大変な投資の無駄があることに驚

かされました。

海南島の歴史は、中国が社会主義となって以降、社会主義圏を拡大するためにベトナムからインドネシア半島に影響力を発揮して社会主義化しようとし、その際に華僑も多くの地域に進出していましたが、インドネシアなど社会主義化に失敗した国から撤退する華僑が熱帯作物の栽培・育成技術を持っているため帰国場所として海南島に土地を与えて、色々な熱帯作物の栽培を進めたようで、中でもゴム・コーヒー・胡椒などは、現在多く栽培されており海南島の有力な物産です。

ゴムを海南島で生産しても赤字だそうです。これは冷戦時代に旧ソ連と中国(スターリンと毛沢東の間)で戦略物資として補助金を出しながら栽培しているとのことでした。

このような熱帯植物が見られる興隆熱帯植物園は、今回ご参加いただきました柴田副会頭によりますと菓の原料となる植物が沢山あり相当価値のあるところだとの評価がありました。

三亚地区は滞在型のリゾート地区との印象を受けましたが、この地区を開発するにあたり開発場所に住んでいた住民(少数民族)は新築のアパート(学校や郵便局、病院など完備している)へ集団移転させられたそうで、社会主義国であることを実感し、我々の吹田操車場跡地ではこのような訳にはいかないと感じました。

今回の海外研修は計画段階から紆余曲折がありましたが、皆様には何かを感じていただけたことと思います。4日間の多くを移動に時間を費やしたようにも感じた研修でした。

平成11年度 正会員・シニア会員・卒業会員名簿

役職名	姓 名	事 業 所 名	役職名	姓 名	事 業 所 名
会 長	大 枝 正 人	大枝印刷機	正 会 員	金 子 薫	金子会計事務所
直前会長	井 村 卓 治	能井村・井村楽器	"	金 子 武 夫	大信産業機
副 会 長	家 村 一 弥	能マルマンエステート	"	紙 谷 正 行	機紙谷製作所
"	高 根 秀 人	たかね研究所能	"	紙 谷 幸 弘	機紙谷工務店
"	寺 西 大 武	寺西大武税理士事務所	"	光 塚 将 人	ジュエリーこうづか
監 事	豊 田 稔	能カントリーロード	"	小 儀 良 治	能アールワイブプレミアム
"	好 見 平治郎	能ヨシミ電子機器	"	佐々木 繁 一	あい工務店一機建築士事務所
理 事	生 田 謙一郎	ART WORKS	"	杉 林 繁次郎	能杉林商行
"	池 田 誠一郎	池田電機製作所	"	高 津 昇	能津電機工務機
"	石 田 義 之	ケンセイ・プランニング機	"	武 田 孔 秀	能トライオール
"	大 水 弘 志	能共同技研	"	武 本 栄 治	能ユニオン技建
"	棚 橋 渉	棚橋会計事務所	"	辻 井 泰 人	辻井歯科医院
"	豊 岡 正 一	能豊岡石材店	"	津 山 壽	津山行政社労士事務所
"	中 江 得 雄	中江硝子機	"	戸 城 公 孝	能キョウドウ
"	西 川 哲 成	能ユタカブラザ	"	中 野 聡	光洋ビジネス機
"	西 山 浩 司	能西山製作所	"	中 野 紀 彦	つ る や
会計理事	山 本 啓 方	山本会計事務所	"	西 形 方 良	いすゞオート西形機
顧問	足 立 善 信	足立商事機	"	西 埜 治 也	能西埜ビルディング
			"	橋 本 治	橋本建設機
正 会 員	明 石 達 也	日興硝子機	"	橋 本 徹 也	能橋本測量設計事務所
"	天 野 浩 行	天野鋼建機	"	橋 本 浩	能橋本工務店
"	有 田 亮 一	三 恵 機	"	馬 堀 龍	設計事務所GAプランニング
"	石 井 博 章	能アルマスサニーストンホテル	"	足 田 陽 造	ひきだ歯科医院
"	上 杉 邦 雄	能上杉工業	"	平 田 千 足	能平田工務店
"	内 田 温 久	能ティースリー	"	藤 川 晃 司	ハートコーヒー機
"	大 川 次 郎	日本ホームサービス機	"	藤 本 寿 久	ふじもと洋品店
"	大 谷 昌 広	大谷工業機	"	味 舌 隆 司	味舌陶房
"	大 前 清 彦	能守美清掃社	"	町 矢 日登美	能マチヤトレディング
"	大 森 一 輝	能大森工業	"	松 井 淳 市	のむはうすバーディー
"	尾 崎 浩 道	あずま安機	"	松 田 宣 夫	ユキオ商事機
"	尾 崎 渡	尾崎電器店	"	松 原 嘉 城	能リード保険サービス

役職名	姓 名	事 業 所 名	役職名	姓 名	事 業 所 名
正 会 員	元 田 正 伸	能マッハ大阪支店	卒 業	香 島 直 也	能ケー・エー流通企画
"	山 口 明 洋	能山陽工芸	"	亀 井 庸 一	日本燈火用硝子工業機
"	山 口 篤 信	能クロード	"	川 上 宇三雄	川上D.T.O
"	山 出 満	アーキヤマデ機	"	菊 池 守	岐建本材機 吹田支店
"	淀 井 満 福	能淀井表具店	"	木 原 一 郎	アスワン保険センター能本館
"	渡 辺 敏 弘	きくら銀行 吹田支店	"	木 原 雅 行	能大阪会員機サービス
			"	木 村 義 雄	木村密接工業機
シ ニ ア	東 秀 夫	東会計事務所	"	九 鬼 史 郎	北摂興産機
"	堀 村 峰 雄	能ウェルシーエンタープライズ	"	葛 川 福之助	能福産業機
"	武 金 棟	武蔵商事機	"	斎 藤 正 一	三共エレクトック機
"	延 秀 恵	能エンボウ	"	白 川 邦 彦	ユタカ設計一機建築士事務所
"	大 井 清	能M&Tクリニックスミット	"	杉 本 良 一	能万 両
"	大 谷 勇	能近畿電設	"	関 健 次	関健次税理士事務所
"	柿 白 保	能柿白タイル	"	田 中 茂 晴	能田中工務店
"	菊 池 信一郎	能ビック	"	塚 腰 恵美子	能ライフサービス
"	北 野 俊 総	能津信用金庫 吹田支店	"	常 深 嘉一郎	能つねみ
"	黒 岩 哲 夫	黒岩会計事務所	"	中 臺 雅 夫	理容 中台
"	佐 藤 善 秀	能ロスコ・アールティ研究所	"	中 西 武 雄	中西工業機
"	柴 田 仁	大幸薬品機	"	中 西 敏 明	能中西硝子工芸社
"	瀧 川 紀 征	能リバフォール	"	中 山 安 信	サカエ食品機
"	田 中 進	栄電気機	"	西 野 修	能西野商会
"	中 村 英 夫	能江坂設備工業	"	服 部 修 二	三喜紙業機
"	長 良 有 芳	能ベストワン・プランニング	"	浜 元 稔	能 浜 元
"	堀 田 稔	能堀田工務店	"	平 野 富 義	エフビーオートノ機
"	松 村 晴 雄	まつむら呉服店	"	袋 本 繁 雄	岐建本材機吹田支店
"	渡 邊 眞	能ワクナベ	"	細 川 憲 和	N.T.T 吹田営業所
			"	前 岡 健	前岡製網機
卒 業	伊 藤 武 治	能I.T.O. 総合住設	"	松 田 廣 央	吹田市開発ビル機
"	伊 藤 久 重	能理容・美容 伊藤	"	松 藤 友 房	コンセントライフ機
"	宇都宮 格	宇和彫刻	"	三 幡 輝 男	能リビングサロン
"	榎 木 康 裕	日本持株産業機			
"	大 岡 一 雄	N.T.T 西吹田営業所	物 故	中 川 克	中川酒店
"	大 山 昭 夫	山本産業機	"	上 田 哲	上田鋳金工業機

平成2年度から平成11年度

商青連・大阪府連への出向者名簿

年	商青連役職	大阪府連役職	出向理事	姓 名	会 社 名
平成4年		副会長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 足田 中進 井村 卓治 大井 清一 斎藤 正一	足立商事機 栄電気機 磯井村・井村楽器 機M&Tクリニックコスミック 三武エレクトック機
平成5年		副会長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 井村 卓治 東 秀夫 長 良有 木 原一	足立商事機 磯井村・井村楽器 東会計事務所 機ベストワン・プランニング アスワン保険センター(柳木原)
平成6年		副会長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 長 良有 井村 卓治 松村 晴雄 池田 誠一郎	足立商事機 機ベストワン・プランニング 磯井村・井村楽器 まつむら呉服店 池田電機製作所
平成7年		周年準備委員会 委員長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 長 良有 上田 哲 松村 晴雄 池田 誠一郎	足立商事機 機ベストワン・プランニング 上田飯金工業機 まつむら呉服店 池田電機製作所
平成8年	研修第1(企画) 委員長	会 長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 井村 卓治 上田 哲 東 秀夫 大 枝正	足立商事機 磯井村・井村楽器 上田飯金工業機 東会計事務所 大枝印刷機
平成9年	副会長	直前会長	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 井村 卓治 柴田 仁 大枝 正人 池田 誠一郎 好見 平治郎	足立商事機 磯井村・井村楽器 大幸薬品機 大枝印刷機 池田電機製作所 機ヨシミ電子機器
平成10年		顧問	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 上田 哲 井村 卓治 大枝 正人 池田 誠一郎 好見 平治郎	足立商事機 上田飯金工業機 磯井村・井村楽器 大枝印刷機 池田電機製作所 機ヨシミ電子機器
平成11年	監 事	顧問	常任理事 常任理事 理 事 理 事 理 事	足立 善信 大枝 正人 高根 秀一 家村 謙一郎 生田 大武 寺西 大武	足立商事機 大枝印刷機 たかね研究所機 機マルマンエステート ART WORKS 寺西大武税理士事務所

Let's
Try

KAMITANI



株式会社 紙谷工務店

取締役社長 紙谷 豊重

本 社：大阪府吹田市江坂町3丁目3番1号
〒564-0061 ☎06(6385)1701 FAX 06(6330)6408
支 店：大阪・東京・札幌・池田
営 業 所：摂津・東淀野・堺・北広島

私にはラッパのマークが
ついています。



大幸薬品

おなかのトラブルは突然やってきます。
いざという時のために
正露丸をお備えください。

下痢・食あたり・水あたり
正露丸[®]

正露丸は、大幸薬品の登録商標です



栄電気株式会社



地域と共に

〒564-0024 吹田市高城町5番15号

Tel (06)6381-6623 Fax (06)6382-7466

足立商事株式会社

代表取締役 足立善信

〒564-0062 吹田市垂水町1-1-8

TEL (06)6380-2078

FAX (06)6384-6839



自然素材の家

人にも、環境にも
子供達の未来にも
やさしい「家」

株式会社
ベストワン・プランニング

(設計・施工)

代表取締役 長良有芳

〒565-0851 吹田市千里山西1-16-14

TEL:06(6338)7588

FAX:06(6386)4342

E-mail: best1@mbox2.inet-osaka.or.jp Homepage: http://home.inet-osaka.or.jp/~best1

ヤマハ特約店



本 店	吹田市朝日町18番11号 旭通り商店街中央	TEL 6381-0314-8102 6381-5270
さんくす店	吹田市朝日町 吹田さんくす2番館215号	TEL 6381-0103
楽器センター	吹田市高城町17-2	TEL 6381-7874
エレクトーンハウス	吹田市高城町17-1 ハイム高城1F	TEL 6381-5883 6381-8811
高 槻 店	高槻市古曽部町1-1-22(西武百貨店北側)	TEL 0726-81-8110

上田鋳金工業株式会社

〒564-0004 吹田市原町1-36-6

TEL (06)6388-2177 FAX (06)6388-2137

効果的な企画



効果的な印刷商品

大枝印刷株式会社

〒564-0031 吹田市元町28-7 ☎(06)6381-3395

E-mail: oeda@oeda.com

URL: http://www.oeda.com

いい人 いい街 SET'S 摂津信用金庫

せっつしんぎん

http://www.net.0726.or.jp/~sessin

吹田市内店舗ご案内

吹 田 支 店	JR吹田駅前旭通商店街入口	(06)6381-4321
豊 津 支 店	阪急豊津駅西口交番隣	(06)6384-1462
片 山 支 店	吹田片山商店街吹田税務署隣	(06)6387-3441
江 坂 支 店	染の井バス停東100m	(06)6386-6021
千里山駅前支店	阪急千里山駅前	(06)6337-0571
南吹田支店	吹田南小学校前	(06)6821-8531



黒字家計の名コーチ

総合生活館

(株)サンゼリア

吹田市片山町3丁目32番3号

代表取締役 河野武夫

TEL (06)6380-6405

FAX (06)6387-3464



土木建築総合請負

株式 堀 田 工 務 店

本 社 吹田市上山手町20番3号

本店営業所 吹田市山手町3丁目34番1号

〒564-0073 TEL 06(6388)0235番

池 田 支 店 池田市豊島北2丁目4番6号

〒563-0036 TEL 0727(62)2222番

滋賀営業所 滋賀県彦根市藤王町東部1170-1

〒520-2500 TEL 0748(58)0280番

寺西大式税理士事務所

寺 西 大 式(青年部会員)

〒564-0051 吹田市豊津町14-10 丸萬ビル4F

TEL (06)6380-0526

FAX (06)6380-0992

E-mail: daiji@mail.infomart.or.jp

借地借家コンサルティング

(有)マルマンエステート

TEL 06-6385-1175

http://www.osk.3web.ne.jp/~mar



栄庫

地域と共に

(06)6381-4321
(06)6384-1462
(06)6387-3441
(06)6386-8021
(06)6337-0571
(06)6821-8531

・給排水衛生設備
各種ダクト工事

工業

23-1
-1821代
-8454
1丁目5番8号
58-6903



BE

01
-1631

新大阪サニーストンホテル
06-6390-0001
地下鉄・西中島南方駅(徒歩3分)
FAX 06-6390-2332

設計・施工
設置・自動機設計製作

近畿電設

取締役 大谷 勇
(青年部シニア会員)

〒564-0028 吹田市昭和町27番3号
TEL(06)6382-6099(代表)
FAX(06)6382-0051



たかね研究所

デザイン(建築・インテリア・カラー)/美術/易学鑑定/法・政・経

代表取締役・学長 高根 秀人
(吹田商工会議所議員、青年部会員
大阪府商工会議所青年部連合会常任理事)

〒564-0844 大阪府吹田市南金田2-3-26 フェイル江坂4F
TEL(代)06-6330-0661

吹田市指定給排水・衛生・冷暖房・空調
鋼構造物工事重量シャッター部材



上杉工業

代表取締役 上杉 富治郎
(吹田商工会議所議員)

本社 吹田市日の出町26-63
管工事部 06(6381)7244(代)
鉄工部 06(6381)7241(代)
金型製版部 06(6381)7241(代)
岸部支店 吹田市岸部中1-13-1

ヨシミ電子機器

代表取締役 好見 平治郎
(青年部会員)

〒568-0082 茨木市下音羽111
電話(0726)49-3183番
FAX(0726)49-3978番
<http://www.infomart.or.jp/suitacci/yoshiden/>
E-mail yoshiden@mail.infomart.or.jp

営業種目
プリント板応用
各種産業用電子機器組立

日本ホームサービス株式会社

代表取締役 大川 次郎
(青年部会員)

〒564-0082 吹田市垂水町2丁目20番25号
TEL(06)6337-1181 FAX(06)6337-1185

池田電機製作所 電子用電気焼成炉・
徐冷炉・乾燥炉

〒564-0083
大阪府吹田市鶴日が丘町29-20
Tel(06)6385-5138/Fax(06)6330-3774



大井会計事務所

〒564-0063 吹田市江坂町2丁目1番11-1401
TEL(06)6385-9400 FAX(06)6384-0407
Internet Home Page URL:
<http://www.3-avenue.com/network/law/cosmic.htm>
税理士 大井 清(青年部シニア会員)

株式会社 紙谷製作所

代表取締役 紙谷 正行
(青年部会員)

本社 大阪府吹田市広芝町23番19号
〒564-0052 TEL(06)6384-8892代
FAX(06)6384-8893

有限会社 共同技研

測量 業(2) - 19913号
一級建築士事務所 大阪府吹田市14029号

代表取締役 大水 弘志(青年部会員)

〒564-0026 吹田市高浜町1-1(石橋ビル)
TEL(06)6317-1852 FAX(06)6317-1853

建築企画・設計・施工・注文建築・リフォーム

ケンセイ・プランニング株式会社

代表取締役 石田 義之
(青年部会員)

〒564-0043 大阪府吹田市南吹田5-11-18
TEL(06)6385-3323 FAX(06)6385-4143

株式会社 マツハ 大阪支店

〒565-0824 大阪府吹田市山田西1-36-3
TEL(06)6876-8890 FAX(06)6877-8890
取締役大阪支店長 高橋 一知

「トナーカートリッジ
リサイクルで地域に貢献」



つるや

■本店/吹田市清和園町20-8
TEL 06-6381-8723/06-6383-2943
■FAX/06-6381-1339
■受付時間 午前9:00~午後7:00
定休日/毎週水曜日(予約注文の場合は、定休日でも承ります。)

設計コンサルタント
測量、設計、登記



橋本測地設計事務所

本社 大阪府吹田市南吹田3丁目9番9号(〒564-0043)
TEL 06-6384-0581 FAX 06-6330-6184
熊本支店、泉南支店、茨木支店

味舌陶房

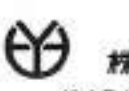
店主 味舌 隆司
(青年部会員)

〒565-4801 吹田市新井屋下7-12
TEL 06-6875-2884 FAX 06-6877-3191

つじい歯科医院

院長 辻井 泰人
(青年部会員)

〒565-0824 吹田市山田西2丁目10-5
TEL(06)4864-8286
FAX(06)4864-8287



株式会社 インボウ

代表取締役社長 延 秀 恵
(青年部シニア会員)

〒564-0031 吹田市元町21番15号
TEL(06)6381-0981 FAX(06)6383-9251

東会計事務所

所長 東 秀 夫(青年部シニア会員)

〒564-0062 吹田市垂水町3丁目8番27号
ハートフル江坂3階
TEL 06-6384-3382
FAX 06-6384-4914

日本ホームサービス株式会社

代表取締役 大川 次郎
(青年部会員)

〒564-0082 吹田市垂水町2丁目20番25号
TEL(06)6337-1181 FAX(06)6337-1185

大谷工業株式会社

代表取締役 大谷 昌 広(青年部会員)

ひきだ歯科医院

院長 足田 陽 造(青年部会員)

いすゞオート西形株式会社

TEL(06)6877-8711代

山本会計事務所

税理士 山本 啓 方(青年部会員)

株式会社 守美清掃社

代表取締役 三野 千 明
本社/〒565-0823 吹田市山田西29-3-415 TEL(06)6340-3850代

中江硝子株式会社

代表取締役 中江 得 雄(青年部会員)

吹田商工会議所 青年部

10年のあゆみ

発行日：1999年10月16日

発 行：吹田商工会議所 青年部

〒564-0041 吹田市泉町2丁目17番4号
TEL(06)6330-8001 FAX(06)6330-3350

編 集：創立10周年記念事業実行委員会

印 刷：大枝印刷株式会社

〒564-0031 吹田市元町2番7号
TEL(06)6381-3395 FAX(06)6318-2000